

富山県婦中町
県営公害防除特別土地改良事業に係る
埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書

1999年3月

婦中町教育委員会

序

婦中町は豊かな自然に恵まれた町です。しかし過去には、町の西側に流れる神通川が上流の鉱山からカドミニウムを運び、婦中町もその汚染の被害に遭いました。そして流域にすむ人々は、イクイイタイ病に触られ、長い間苦しめられてきました。

汚染流域の田は、県営公害防除特別土地改良事業により長い年月をかけて復元工事が進められてきました。それに先立ち婦中町教育委員会では、事業区域の文化財を保護するため、試掘調査を実施してきました。そして今年度、六ヶ年にわたる試掘調査がようやく完了しました。本書はその成果をまとめたものであります。

調査の結果、『延喜式』にその名が記される式内社の熊野神社・鶴坂神社周辺に古代から中世を中心とする遺跡群を発見しました。一帯は徳大寺家領宮河荘の荘域であり、これらの遺跡群の発見は当時の社会を考える上で貴重な資料といえます。

本書が、多くの人々に活用され、郷土の歴史を知っていたり、文化財保護に対する一層の理解の一助となれば幸いと存じます。

最後に、調査に御協力、御指導頂きました地権者の方、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い致します。

平成11年3月

婦中町教育委員会

教育長 宮 島 信 一

例　　言

- 1 本書は、富山県婦負郡婦中町鵜坂・速星・熊野地区における埋蔵文化財包蔵地の試掘調査報告である。
- 2 調査は、県営公害防除特別土地改良事業（神通川流域第3次地区）の実施に先立ち、富山県農地林務部富山農地林務事務所の依頼を受けて、婦中町教育委員会が実施した。
- 3 調査事務局は、婦中町教育委員会生涯学習課に置いた。平成5年度は文化係長見波重尋が調査事務を担当し課長清水隆吉が総括、平成6年度から平成7年度は文化振興係長見波重尋が調査事務を担当し課長平井光雄が総括、平成8年度から平成10年度は文化振興係長山田茂信が調査事務を担当し課長鍋山徹が総括した。
- 4 試掘調査は、平成5年度から平成10年度までの6年間で、平成5年度から平成8年度までの試掘調査については富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を受けた。また、分布調査は、富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を受け、平成5年度からは富山大学考古学研究室の御協力を得た。調査の期間・面積・担当者等の詳細は、本文を参照されたい。
- 5 本書の編集・執筆及び資料の整理は、婦中町教育委員会文化財保護主事片岡英子、同堀内大介が行った。文責は、
II 1 (11) 砂子田1遺跡の遺物は堀内、III 1 公特事業区域外の試掘調査は堀内・片岡、その他の文章は片岡にある。
- 6 資料整理期間中、次の方から有益な御教示・助言を得た。記して感謝の意を表する。
越前慶祐・久々忠義・酒井重洋・宮田進一（敬称略、五十音順）
また、遺物写真撮影については、場所・器材など城端町教育委員会の御協力を得た。大平奈央子氏・宮崎順一郎氏には記して厚く感謝申し上げる。
- 7 発掘調査作業員の確保については、婦中町シルバー人材センターの御協力を得た。また調査にあたっては、地権者並びに地元の方々に多大な御協力を得た。記して謝意を表する。
- 8 発掘調査・遺物整理・報告書作成業務の参加者は次の通りである。
小島あずさ・近藤美紀（嘱託職員）
中坪千春・生田寿美子（整理作業員）
戸簗暢宏・山崎雅恵・中野秀昭・中島和哉・西村倫子（整理補助員）
- 9 出土・採集遺物及び記録資料は婦中町教育委員会が保管している。

凡　　例

- 1 トレンチの表記はT～とした。トレンチ番号は現場で使用したものをそのまま使っており、新たに整理したものではない。そのため、同一遺跡で同じ番号があつたり、調査によっては遺跡や試掘の班を判別する為のアルファベットやローマ数字がつけられているものもある。
- 2 写真図版中の遺物番号は実測図の番号と一致する。
- 3 方位は真北、水平基準は海拔高である。

本文目次

序文	(15) 道場Ⅱ遺跡	13
例言	(16) 中名Ⅰ(・Ⅲ)遺跡	13
目次	(17) 中名Ⅱ遺跡	14
I 序章	(18) 中名Ⅳ遺跡	14
1 遺跡の立地と歴史的環境	(19) 中名Ⅴ遺跡	14
2 調査に至る経緯と分布調査	(20) 中名Ⅵ遺跡	15
II 試掘調査の概要	(21) 田代Ⅰ遺跡	16
1 試掘調査の経過	(22) 田代Ⅱ遺跡	16
2 試掘調査の結果	(23) 下井沢Ⅰ遺跡	16
(1) 西本郷遺跡	(24) 下井沢Ⅱ遺跡	16
(2) 羽根新Ⅰ遺跡	(25) 清水島Ⅰ遺跡	16
(3) 鵜坂Ⅰ遺跡	(26) 清水島Ⅱ(・Ⅳ)遺跡	17
(4) 宮ヶ島Ⅰ遺跡	(27) 清水島Ⅲ遺跡	17
(5) 田島Ⅰ遺跡	(28) 堀Ⅰ遺跡	17
(6) 下巒Ⅰ遺跡	III カドミ汚染地区におけるその他の調査	18
(7) 塚原Ⅰ遺跡	1 公特事業区域外の試掘調査	18
(8) 上巒Ⅰ遺跡	2 本調査の状況	20
(9) 上巒Ⅱ遺跡	IV まとめ	23
(10) 増田Ⅰ遺跡		
(11) 砂子田Ⅰ遺跡	参考文献	
(12) 板倉Ⅰ・Ⅱ遺跡	写真図版	
(13) 添島Ⅰ遺跡	報告書抄録	
(14) 道場Ⅰ遺跡		

挿図目次

第1図 周辺の遺跡分布図及び一覧
第2図 分布調査対象範囲
第3図 分布調査による遺跡推定範囲
第4図 試掘調査対象範囲
第5図 カドミ汚染地区における公特事業区域外の試掘調査位置図
第6図 本調査実施範囲
第7図 遺跡分布図
第8図～第25図 試掘調査概要図
第26図～第37図 遺物実測図

第1表 公害防除特別土地改良事業に係る分布調査一覧
第2表 公害防除特別土地改良事業に係る試掘調査一覧
第3表 カドミ汚染地区における公特事業区域外の試掘調査一覧
第4表 公害防除特別土地改良事業に係る本調査一覧
第5表 遺跡総括表

I 序 章

1 遺跡の立地と歴史的環境

婦中町は県中央部にあり、地形は西の丘陵部と東の平野部に二分される。本書で報告する県営公害防除特別土地改良事業に係る遺跡は神通川とその支流である井田川に挟まれた扇状地に分布する。

婦負郡には「延喜式」(927年)の神名帳にその名が記載された式内社が7箇所あり、今回調査対象となった地域には、そのうちの熊野神社と鵜坂神社がある。熊野神社は稚児舞で知られる神社で、伝承によると、久寿二年(1155)、立山山麓の五智山円福寺が萩の島に移され、それがこの神社であるという。また鵜坂神社については、「この社についての記事は、『六国史』をはじめとして古代・中世の書にも多く見られ、昔から越中国のなかでも有数の大社であったことをしめしている」(白川1996)という。神通川左岸は式内社が2つも存在することから、中世以前から栄えてきたと考えられる。

神通川を挟んで富山市側には、吉倉A・B遺跡、南中田D遺跡、任海遺跡、任海宮田遺跡などの古代から中世に形成された集落遺跡があり、これらのなかには開発の拠点になっていたと考えられるものもある。これまでの研究でこの一帯は慈大寺家領官河莊に含まれ、莊域は婦中町の神通川左岸地区を取込む極めて広大な範囲に及んでいたと推定されている。



番号	遺 跡 名	主 な 時 代
1	鵜坂 I	奈良、平安、中世、近世
2	宮ヶ島 II	中世、近世
3	下轟田 I	中世、近世
4	砂子田 I	古墳、奈良、平安、中世
5	袋	古代
6	道場 I	中世、近世
7	道場 II	中世、近世
8	中名 I	平安、中世
9	中名 II	中世
10	中名 V	古代、中世、近世
11	中名 VI	奈良、平安、中世、近世
12	持田 I	中世、近世
13	清水島 II	中世、近世
14	堀 I	中世、近世
15	黒瀬大屋	弥生、古代、中世、近世
16	黒崎種田	古代、中世、近世
17	八日町	古代、中世
18	友杉	古代、中世
19	任海宮田	縄文、古墳、古代、中世
20	任海池原寺	中世、近世
21	吉倉 B	古代、中世
22	任海猪倉	古代、中世
23	南中田 D	縄文、古代、中世
24	吉倉 A	古代、中世
25	任海	古代、中世
26	栗山種原	古代、中世
27	安田城跡	中世、近世
28	友坂	奈良、平安、中世、近世

第1図 周辺の遺跡分布図及び一覧 (1 / 50,000)

2 調査に至る経緯と分布調査

(1) 調査に至る経緯

明治7年に三井組が岐阜県神岡鉱山より亜鉛の採掘を開始した。そこから廃物として排出されたカドミウムは神通川流域を汚染していき、汚染地区の水や米を口にした人々はイタイイタイ病に蝕まれた。昭和47年に行われた高等裁判所での裁判で、三井金属鉱業が言い渡された判決には、農業被害の賠償と汚染土壤復元の義務が含まれていた。

その後、昭和49年・52年には、県は神通川流域の829.9haを農用地土壤汚染対策地域として指定した。そして昭和54年から、県営公害防除特別土地改良事業（以下「公特事業」という。）による本格的な土壤復元が始まったのである。

この事業により、婦中町域でも1~3次地区、2期地区に分けて復元工事が進められることになった。しかしこの時点では、婦中町の平野部における遺跡の分布状況は殆ど把握されていない状況にあった為、まずは工事に先立ち分布調査を行い、遺跡の有無・範囲・遺存状況を把握して、その保存措置を講じるための資料を得ることが必要になった。

(2) 分布調査の経過と結果

分布調査は昭和53年から始まり、その後、延べ9ヶ年にわたって実施した。調査は、婦中町教育委員会と富山県埋蔵文化財センターが担当し、平成5年からは富山大学考古学研究室の協力を得た。

まず、昭和53年度に行った1次地区（工期：昭和54~59年、工事面積：11.9ha）の分布調査と、昭和57年度に行った2次地区（工期：昭和58年~平成6年、工事面積：165.1ha）の分布調査では、遺跡推定地は確認されなかった。

3次地区（工期：平成4~16年、工事面積：329.2ha）、2期地区（工期：平成9~18年、面積：36ha）の分布調査は、対象地が広範囲であった為、6ヶ年にわたって実施した。この地区では、まず平成2~3年度に実施した分布調査では遺跡推定地は確認されなかった。しかし、その後平成5年度には14箇所、平成6年度には10箇所、平成7年度には7箇所、平成8年度には3箇所、平成9年度には2箇所の遺跡推定地が確認され、それらは33箇所にまとまりを見せた。遺跡推定面積の合計は約164.4haに及んだ。

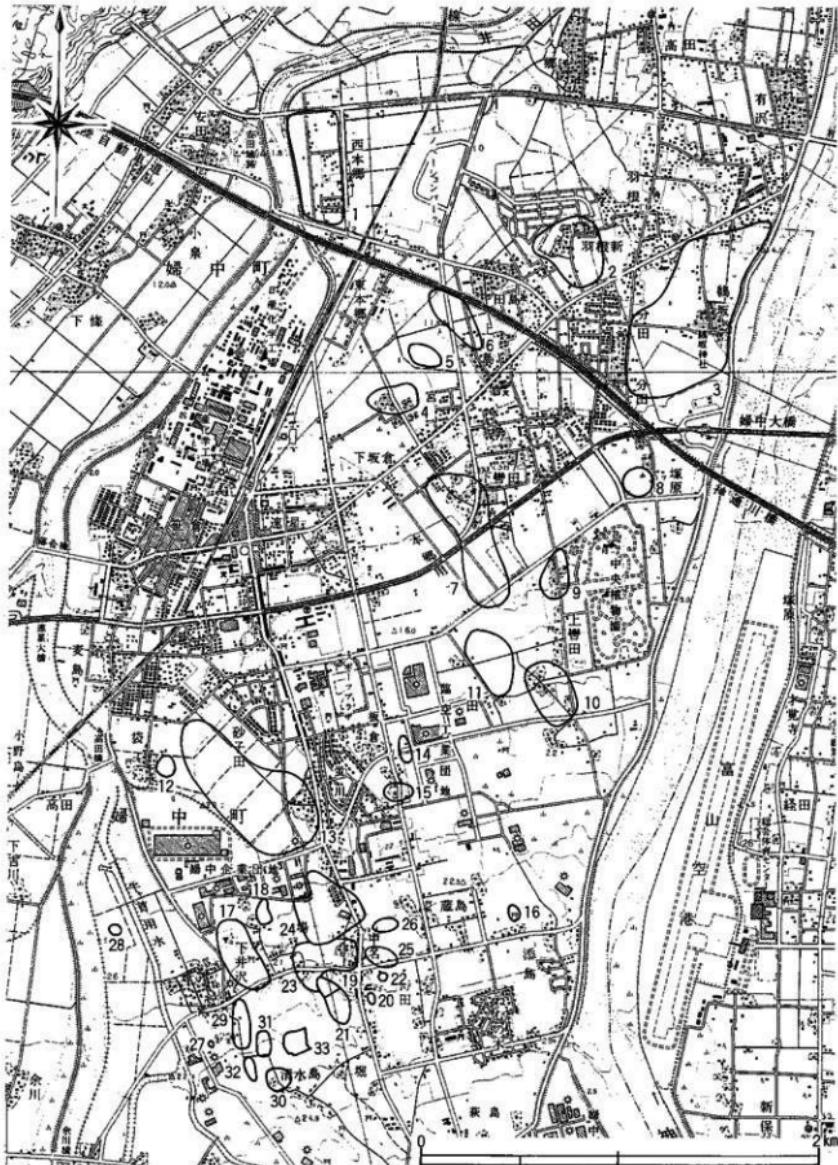


第2図 分布調査対象範囲 (1 / 50,000)

これらの分布調査の一覧は第1表に、調査対象範囲は第2図に、分布調査による遺跡推定範囲は第3図に載せている。
なお、平成4年度以前の調査については、記録が残されておらず詳細が不明である為、表には載せていない。

期間 (実施日数)	調査担当者	対面積 (ha)	遺跡推定地名	遺跡推定面積 (m ²)	遺物	第3回 No	
H 5.11.26 (1日間)	福中町教育委員会 主事 片岡英子 富山県埋蔵文化財センター 企画調整課長 山本正敏 調査課課長 犬野賛 文化財保護主事 田本淳一郎 * 田中修一 * 伊佐智法	24.0	下井沢 I	2,700	珠洲	27	
			清水島 I	12,600	珠洲、近世陶磁器	29	
			清水島 II	15,000	中世土師器、越前、越中瀬戸、近世陶磁器	30	
			清水島 III	6,600	* 路跡不可能な為、地形等より判断	31	
			清水島 IV	9,750	* 路跡不可能な為、地形等より判断	32	
			船 I	16,900	中世土師器、五輪塔	33	
			中名 I	16,800	中世土師器、珠洲、越前、近世陶磁器	19	
			中名 II	3,850	中世土師器、珠洲、近世陶磁器	20	
			下井沢 II	3,000	須恵器	28	
H 5.12.21 (1日間)	富山県埋蔵文化財センター 企画調整課長 山本正敏 主任 橋本正泰 文化財保護主事 田本淳一郎 * 田中修一 * 伊佐智法	75.3	中名 III	7,500	土師器、近世陶磁器	21	
			中名 IV	3,500	五輪塔	22	
			持田 I	16,250	古代土師器、珠洲、中世土師器、近世陶磁器	25	
			持田 II	9,500	土師器	26	
			添島 I	7,500	土師器、越中瀬戸	16	
				131,450			
平成5年度小計							
H 6.4.11 ~ 4.12 (2日間)	福中町教育委員会 文化財保護主事 片岡英子 富山県埋蔵文化財センター 主任 久々忠義 主任 神保浩造 文化財保護主事 高梨清志 * 河西健二 * 越前慶祐	83.7	道場 I	46,100	中世土師器、珠洲、越前、瓦質土器、白磁、 越中瀬戸、伊万里、五輪塔、石臼、近世陶磁器	17	
			道場 II	6,750	中世土師器、越中瀬戸、信楽、伊万里	18	
			中名 V	63,740	中世土師器、越中瀬戸、伊万里、近世陶磁器	23	
			砂子田 I	63,350	古式土師器、土師器、須恵器、瓦質土器、越中瀬戸、 伊万里、近世陶磁器	13	
			板倉 I	8,800	中世土師器、越中瀬戸	14	
			板倉 II	7,950	須恵器、越中瀬戸、伊万里、近世陶磁器	15	
			下井沢 I	4,410	伊万里、近世陶磁器	7	
			増田 I	58,600	伊万里、近世陶磁器	11	
			上井田 I	28,200	越中瀬戸、伊万里、近世陶磁器	9	
			上井田 II	48,000	越中瀬戸、五輪塔、近世陶磁器	10	
				335,900			
H 7.4.11 ~ 4.17 (5日間)	福中町教育委員会 文化財保護主事 片岡英子 富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事 池田恵子 * 越前慶祐	382.3	利根新 I	89,000	越中瀬戸、近世陶磁器	2	
			鶴坂 I	396,000	中世土師器、須恵器、珠洲、蘿戸美濃、瓦質土器、 越中瀬戸、近世陶磁器	3	
			下井田 I	139,000	中世土師器、珠洲、寛永通宝、伊万里、唐津、 近世陶磁器	7	
			官ヶ島 I	52,000	蘿戸美濃、越中瀬戸、近世陶磁器	4	
			官ヶ島 II	23,000	土每質土器、越中瀬戸、近世陶磁器	5	
			坂原 I	19,000	珠洲	8	
			田島 I	47,000	土每質土器、越中瀬戸、伊万里、近世陶磁器	6	
				765,000			
H 8.4.16 ~ 4.18 (2日間)	福中町教育委員会 文化財保護主事 片岡英子 富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事 高梨清志	139.6	西本郷	129,000	五輪塔、近世陶磁器	1	
			砂子田 I	267,000	古式土師器、土師器、須恵器、青磁、銅鏡、 近世陶磁器	13	
			合	8,800	土師器	12	
				404,800			
H 9.4.11 (1日間)	福中町教育委員会 文化財保護主事 片岡英子 * 横内大介	61.0	道場 I	3,900	伊万里	17	
			道場 II	3,250	越中瀬戸、瓦質土器、キセル	18	
平成9年度小計				7,150			
合計				765.8	1,644,300		

第1表 公害防除特別土地改良事業に係る分布調査一覧(平成5年度以降)



第3図 分布調査による遺跡推定範囲 (1 / 25,000)

II 試掘調査の概要

1 試掘調査の経過

分布調査で確認された遺跡推定地については、場合によっては工事の施工法等の変更や調整が必要になる為、早急な試掘調査による遺跡の有無、範囲、遺存状況などの把握が必要になってきた。そこでまずは農地サイドとの協議によつて、工事計画上優先すべき場所から順に試掘調査を実施した。工事対象となったのは32箇所の遺跡推定地で、調査対象面積は約104haに及び、調査は6ヶ月にわたりた。調査では、バックホウ及び人力により地表面から地山面まで掘削し、遺構・遺物の遺存状況を確認した。試掘トレンチは幅1~1.5mで、約2.5haを発掘した。トレンチ断面の固定方法は、平成5・6年度は地表面を基準として測量していたが、地表面のレベルはバックホウの沈み具合によつて左右される為、平成7年度からは標高を基準にした。

試掘調査の結果、32箇所中17箇所の遺跡推定地は遺構の遺存が認められず、また2箇所については隣接する遺跡と合併した。詳細は第2表のとおりである。

2 試掘調査の結果

(1) 西本郷遺跡（第7次試掘調査、第8・26回）

概況と層序 本遺跡は井田川右岸の自然堤防上に位置する。基本層序は、1層：ぼい黄褐色土（耕作土）、2層：旧耕作土と床土の互層（2~7面分で間層が入る箇所もある）、3層：砂層（地山）となる。

遺物 35は土錐で、長さ5.9cm、幅4.4cm、穴径1.4cmを測る。両端部を面取りしてある。西側の工事現場で採集。

小結 井田川の氾濫の影響を受けつつも何度も耕作が繰り返された場所であったと考えられる。伊万里、越中瀬戸が出土したが、遺構は無かった。西本郷地区は岡崎家によって開拓されたといわれ、当家にはそれを裏付ける古文書が多数存在する。古文書によると同家の先祖は升形城（魚津市）の城主岡崎四郎義村で、その子孫が戦国時代に姫中町の本郷村に移住しこの地を開拓し、江戸時代には歴代十村役を勤めたという。しかし同家は昭和33年に洪水の為に富山市に移住しており、現在では屋敷のあった場所は宅地化されている。おそらく当時の遺構は、水害や宅地化によつて現在では遺存していないものと考えられる。

(2) 羽根新I 遺跡（第6次試掘調査、第9回）

層序 基本層序は、1層：黄灰色シルト（耕作土）、2層：旧耕作土と床土の互層（1~3面）、3層：暗灰黄色シルト（盛土）、4層：河川による堆積（地山）、5層：礫（地山）となる。

小結 越中瀬戸、唐津、伊万里が出土したが、遺構は無く、散布していた遺物は河川による流れ込みと思われる。

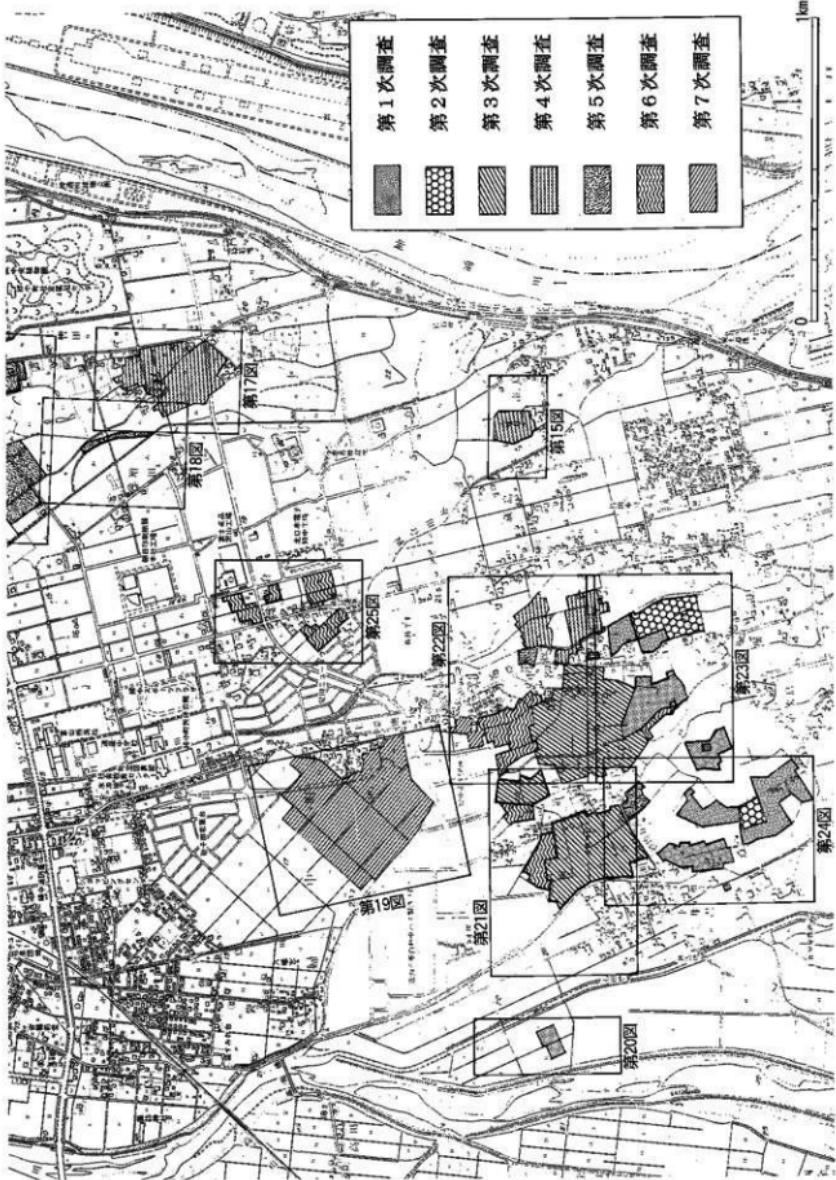
(3) 鵜坂I 遺跡（第6次試掘調査、第10・11・26回）

概況と層序 本遺跡のすぐ東には神通川が流れている。地形は中央部の鵜坂神社以北で自然堤防が南北に形成されており、東西の低い部分と自然堤防の頂部との高低差は2mを測る。基本層序は、前述の自然堤防を境として変化する。自然堤防上の層序は、1層：灰色シルト（耕作土）、2層：床土、3層：旧耕作土・床土、4層：黄褐色シルト（中世遺物包含層）、5層：灰黄色シルトやや粘質（地山）となる。ただし遺構や遺物包含層が遺存するのはT127~129のみである。東側の低地では1層：灰色シルト（耕作土）、2層：床土、3層：旧耕作土・床土の互層（1~5面）、4層：灰色砂、5層：黄灰色粘質土、6層：黄灰色粘質土、暗灰色粘質土（中世の遺物包含層の流れ込み）、7層：河川による堆積（地山）、8層：礫（地山）となり、西側・南側はそのうちの4~6層が無い。

遺構 調査区北側の自然堤防上から中世の土坑、ピットが検出された。尚、調査区中央部の自然堤防上で、2層直下から四角い掘り込みの壁と床面を漆喰と河原石でかためた土坑が検出されたが、これは近世以降の肥溜めと思われる。



第4図 試掘調査対象範囲 (1 / 16,000)



	期 間 (実働日数)	調査 担 当 者	遺跡推定地 名 称	対象面積 (m ²)	発掘面積 (m ²)	遺構遺存面積 (m ²)	備 考
第 1 次 調査	H 6.3.1 ～3.24 (14日間)	緑中町教育委員会 主 席 片岡英子 富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事 国本淳一郎 島田修一	下井沢 I	2,700	38	0	遺跡消失
			下井沢 II	3,000	196	0	遺跡消失
			清水島 I	12,600	353	0	遺跡消失
			清水島 II	15,000	387	3,550	
			清水島 III	6,600	400	0	遺跡消失
			清水島 IV	9,750	393	5,400	清水島 II に合併
			棚 I	15,800	545	330	
			中名 I	16,800	277	2,500	
			中名 II	3,850	100	4,200	
			中名 III	7,500	224	8,800	中名 I に合併
			中名 IV	3,500	85	0	遺跡消失
平成 5 年 度 小 計				98,300	2,998	24,780	
第 2 次 調査	H 6.5.25 ～5.27 (3日間)	緑中町教育委員会 文化財保護主事 片岡英子 富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事 高梨清志	中名 II	20,000	549	26,200	
			富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事 河西義二 越信義祐	清水島 II	6,700	255	2,350
第 3 次 調査	H 6.11.21 ～12.12 (15日間)	富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事 高梨清志	中名 V	79,087	1,620	7,400	中名 I に分割
						58,000	中名 V
						7,300	中名 VI に分割
			富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事 越信義祐	道場 I	52,653	981	39,500
				道場 II	11,845	316	4,300
平成 6 年 度 小 計				170,285	3,721	145,050	
第 4 次 調査	H 7.5.11 ～6.9 (5日間)	緑中町教育委員会 文化財保護主事 片岡英子	棚 I	1,600	61	150	
第 5 次 調査	H 7.11.20 ～12.13 (15日間)	緑中町教育委員会 文化財保護主事 片岡英子 富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事 高梨清志	添 I	11,400	400	0	遺跡消失
			持田 I	14,900	353	9,700	持田 I
						7,000	中名 V
			持田 II	13,900	261	0	遺跡消失
			上持田 II	48,600	993	0	遺跡消失
平成 7 年 度 小 計				90,400	2,068	16,850	
第 6 次 調査	H 8.4.23 (1日間)	緑中町教育委員会 文化財保護主事 片岡英子	持田 I	200	26	100	
	H 8.11.14 ～12.26 (22日間)	緑中町教育委員会 文化財保護主事 片岡英子 棚内大介 富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事 高梨清志	増田 I	3,000	114	0	遺跡消失 (H 9.12月公特外 試掘調査)
			上持田 I	62,000	2,105	0	
			上持田 II	21,000	456	0	遺跡消失
			坂原 I	24,000	381	0	遺跡消失
			中名 V	453	47	453	
			中名 VI	2,680	78	0	
			道場 I	6,900	50	3,200	
平成 8 年 度 小 計				116,233	3,207	3,753	
第 7 次 調査	H 9.6.11 ～10.29 (45日間)	緑中町教育委員会 文化財保護主事 片岡英子 棚内大介 嘱託職員 河西英津子 匂坂友秋	板倉 I	9,000	147	0	遺跡消失
			板倉 II	16,000	281	0	遺跡消失
			範板 I	234,000	3,078	3,630	
			羽根新 I	60,000	872	0	遺跡消失
			中名 I	2,000	96	1,360	
			中名 VI	28,000	646	26,100	
			道場 I	11,000	232	0	
			道場 II	4,000	71	0	
			砂子田 I	127,000	5,507	61,000	
平成 9 年 度 小 計				364,000	5,423	31,080	
第 8 次 調査	H 10.6.24 ～11.24 (44日間)	緑中町教育委員会 文化財保護主事 片岡英子 棚内大介 嘱託職員 近藤英紀 小島あづさ	西本郷	38,000	1,069	0	遺跡消失
			官ヶ島 I	31,000	644	0	遺跡消失 (H 10.12月公特外 試掘調査)
			田島 I	4,000	148	0	
			中名 VI	5,000	22	2,000	
			平成 10 年 度 小 計	206,000	7,380	63,000	
			合 计	1,045,118	24,797	284,513	

第 2 表 公害防除特別土地改良事業に係る試掘調査一覧

遺物 須恵器、古代土師器、製塙土器、中世土師器、珠洲、越前、瀬戸美濃、越中瀬戸、伊万里、丸山、寛永通宝、漆器、木製品が出土した。

古代の遺物 1は土錘で、長さ4.8cm、幅1.4cm、穴径0.3cmと小型で細長い。穴は貫通していない。2・3は古代土師器の碗。

中世の遺物 4～13は中世土師器。4・5はロクロ成形の底部で回転糸切り痕を残す。5は高台状になる。6～13は手づくね成形。6・7は一段ナデで、やや丸みのある平底から内湾する体部となる。11は一段ナデで、平底から直線的に伸びる体部となる。8～10・12は丸底で口縁部が外反する。10は口縁下端に指押さえ痕が連続して見られる。13は口縁部が外反し、端部は小さく摘み上げたようになる。4・5は12世紀中頃、6・7・11は14世紀、8～10・12は15世紀末～16世紀前半、13は16世紀後半と考えられる。

近世・近代の遺物 14～19は越中瀬戸。14～16は擂鉢で、銷粒が掛かる。口縁は内側に折り返されて凸帯を形成し、底部には回転糸切り痕がある。17世紀前半か。17は丸皿で無粒。18は丸碗で鉄釉が掛かり、付け高台である。19は皿鉢の底部で全面に釉が掛かり、回転糸切り痕がある。20・21は伊万里で、18世紀後半のものである。20は白磁の紅皿で、外面に菊花の壓押しを施す。21は皿で見込みに五弁花文、高台内には二重方形枠内に満福が記される。高台は逆台形状で下端に砂が付着する。22は漆器碗で、高台・口縁部は欠損し、器形もかなり変形している。内面は赤色漆、外面は黒漆に赤色漆と黄色漆で文様が描かれる。23は寛永通宝。24～26は板材で、複数結合して円形になるもので、側面に四角い鉄釘の孔が2～5箇所に残る。26は2枚の板が結合している。

小結 試掘調査では自然堤防上北側に中世の遺構・遺物包含層の遺存を確認した。東側の低地部分を中心に流れ込みの遺物が多く出土しているため、おそらく、自然堤防上には当初広い範囲で古代から近世にかけての遺跡が形成されていたものと推測されるが、現在では遺構の遺存が確認されるのはごく一部である。その原因には神通川の氾濫の影響や、自然堤防部分が周辺の地形と比べるとかなり高い為に田の整備の際に削平された事などが考えられる。出土遺物の年代は古代、12世紀中頃、14世紀、15世紀末～17世紀前半、18世紀後半などであるが、中世遺構に伴うものは少なく詳しい遺構年代は決めかねる。なお、公特事業外の試掘調査（Ⅲ章-1参照）では上記の中世遺構の拡がりを確認したほか、北東には古代・中世の遺構・遺物を確認した。また、天正地震（1586）、飛越地震（1858）の際の液状化による2面の埴砂も確認している。

(4) 宮ヶ島I遺跡（第7次試掘調査、第12・26図）

層序 基本層序は、1層：オリーブ黒色土（耕作土）、2層：オリーブ黒色土、3層：暗灰黄色土、4層：旧耕作土と床土の互層（1～3面）もしくは盛土、5層：砂・礫層（地山）となる。

遺物 越中瀬戸、伊万里、肥前系陶器、寛永通宝などが出土した。陶磁器の殆どはT12のゴミ穴から出土した。27～32は越中瀬戸。27～30は皿で、27～29は灰釉。27は船止めの段があり、見込みに16弁菊の印花文と重ね焼きした際付着した粘土が見られる。28は高台以外全て釉が掛けられる。30は鉄釉の内禿皿の底部で、削り出し輪高台である。31は壺類で銷粒が掛けられ、回転糸切り痕がある。32は擂鉢で銷粒が掛けられ、口縁部外面に縁帶をつくる。33は肥前系陶器の擂鉢で、全面に鉄釉が掛けられる。口縁端部外面が丸く肥厚し、脚目上端はそろえてある。口縁部内面断面には漆が付着する。34は寛永通宝である。

小結 調査区内では遺構は無く、本遺跡の西部で行われた別件の試掘調査でも遺構は検出されていない為、散布していた遺物は流れ込みと思われる。尚、T12に検出された近世～近代の陶磁器が入ったゴミ穴は、北側に建つ古い家に関係するものであろう。

(5) 田島 I 遺跡（第7次試掘調査、第13図）

層序 基本層序は、1層：暗灰黄色土（耕作土）、2層：暗灰黄色シルト、3層：灰オリーブ色砂質シルト、4層：灰色シルト、5層：砂・礫層（地山）となる。

小結 遺構・遺物はともに無く、遺跡中央～東部で行われた別件の試掘調査でも遺構は検出されていないことから、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(6) 下巣田 I 遺跡（第5次試掘調査、第16・26図）

層序 基本層序は、1層：黄灰色シルト（耕作土）、2層：灰色シルト（旧耕作土）、3層：にぶい黄色砂（床土）、4層：擾乱・盛土、5層：黄灰色砂（旧河川覆土）、6層：灰黄色砂・礫（地山）となる。

小結 調査完了地区では検出されていない。

遺物 寛永通宝、越中瀬戸、唐津などが出土した。36は寛永通宝である。37は越中瀬戸の小型の壺。底部外面以外は鉄輪が掛けられ、回転糸切り痕がある。茶入れや水滴等になる可能性がある。38は刷毛目唐津の茶碗である。

小結 調査区内には複数の埋没河川が確認された。本遺跡の北部で行われた別件の試掘調査でも同様の状態が認められ、一帯は水のつきやすい地域だったようである。

(7) 塚原 I 遺跡（第5次試掘調査、第14図）

層序 基本層序は、1層：黄灰色シルト（耕作土）、2層：灰色砂質シルト、3層：黄灰色砂（旧河川覆土）、4層：灰黄色砂・礫（地山）となる。

小結 調査区内には埋没河川が確認された。遺構・遺物はともに無く、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(8) 上巣田 I 遺跡（第5次試掘調査、第16図）

層序 基本層序は、1層：黄灰色シルト（耕作土）、2層：黄灰色砂質シルト（旧耕作土）、3層：黄褐色砂質シルト（床土）、4層：暗黄灰色砂質シルト・同色粗砂（旧河川覆土）、5層：灰黄色砂・礫（地山）となる。

小結 調査区内には埋没河川が確認された。遺構・遺物はともに無く、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(9) 上巣田 II 遺跡（第4次試掘調査、第17図）

層序 基本層序は、1層：黄灰色シルト（耕作土）、2層：灰黄色砂質土（盛土）、3層：灰褐色砂質土+黄褐色土粒状（盛土）、4層：黄褐色砂・礫（地山）となる。

小結 調査区内には埋没河川が3条確認された。中世土師器、瀬戸美濃、近世陶磁器が出土したが、遺構は無く、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(10) 増田 I 遺跡（第5次試掘調査、第18図）

層序 基本層序は、1層：黄灰色シルト（耕作土）、2層：灰色砂質シルト・同色砂（旧河川覆土）、3層：灰黄色砂・礫（地山）となる。

小結 調査区内には埋没河川が確認された。遺構・遺物はともに無く、本遺跡の西部で行われた別件の試掘調査でも遺構は検出されていない為、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(11) 砂子田 I 遺跡（第7次試掘調査、第19・27～31図）

概況と層序 本遺跡のすぐ西には井田川が流れている。南方には、古代から近世にかけて形成された集落である中名遺跡群がある。基本層序は、1層：暗灰黄色土（耕作土）、2層：黒褐色土（盛土）、3層：灰色砂質シルト（盛土）、4層：淡い黒褐色土（盛土）、5層：黒褐色土（盛土）、6層：黒褐色土（盛土）、7層：オリーブ黒色砂（河川による堆積）、8層：オリーブ黒色粘質土同色砂混o r 灰色粘質土（古代上層遺物包含層）、9層：灰色粘質土o r 灰オリーブ色粘質土（古代下層遺物包含層、場所により砂含む）、10層：灰オリーブ色シルト質砂（地山）、11層：砂・礫層（地山）となる。

遺構 古代の溝・土坑・ピットが検出された。また、地震による液状化現象である墳砂が数箇所で見られた。これらは、4層直下で止まっており、飛越地盤（1858）によるものであろうか。

遺物 須恵器、古代土師器、土製支脚、製塙土器、土錐、中世土師器、珠洲、青白磁、瓦質土器、八尾、越中瀬戸、唐津、伊万里、木製品が出土した。

古代の遺物 39～136は須恵器。39～77は杯蓋。39は内面にかえりが付く蓋である。40～45は口縁部がやや細長く立ち、やや外へ出る。46～62は口縁部の断面三角形を呈する。63～69は口縁部が丸い。70～77は口縁端部を丸く巻き込む。39は7世紀後半、40～62は8世紀、63～77は9世紀前葉から中葉。56は内面に「一」、74は外面に「×」のヘラ記号が描かれている。78～119は杯。78は杯H。79～99は杯A。100～118は杯B。78は7世紀、79～119は8世紀から9世紀。78は底部外面に「一」、84は底部外面に「≠」、88は内面に「×」、118は内面に「+」のヘラ記号が描かれている。119は底部外面に「長」の文字が墨書きで書かれている。120は小型高杯。121は壺蓋。122～131は壺で、123～126は長頸壺。124の体部外面にはハケ状具による刺突列が見られる。127・128は壺の底部で、127は外面に「+」のヘラ記号が描かれ、128は静止糸切り痕がある。129～131は広口壺。132は壺。133は双耳瓶。134は鉢。135は鍋。136は横瓶。137～217は古代土師器。137は内黒施で、体部が緩く内湾しながら立ち上がり、口縁部を薄く摘むようにする。138～141は杯で、体部が緩く立ち上がり、口縁部がやや外反する。137～141は8世紀末から9世紀初頭と考えられる。142～146は皿。142は柱状高台を持ち、体部が開きながら立ち上がり、11世紀と考えられる。143は142と同一のタイプと思われる。144～146は皿の底部片であり、146は高台を有する。142・144～146は回転糸切り痕がある。147は鍋の持ち手。148は壺。149・150は高杯。163～202・208～214・218～229は壺。163～180は口縁部が強く外反し、口縁端部を丸く収める。181～198は口縁部が緩く外反し、口縁端部に向て内湾しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。199～202は口縁部が緩く外反し、口縁端部を面取りする。208～214は口縁部が緩く外反し、口縁端部を面取りし摘み上げる。218～226は口縁部が緩く外反し、口縁端部が屈曲する。227～229は口縁部が緩く外反し、口縁端部を巻き込む。163～202は8世紀、208～214・218～229は9世紀。164は外面に「×」、177は内面に「△」のヘラ記号が描かれている。203～207・215・216は鍋。203～207は口縁部が緩く外反し、口縁端部を面取りする。215・216は口縁部が緩く外反し、口縁端部を面取りし摘み上げる。203～207は8世紀後葉、215・216は9世紀前葉。217は瓶で、持ち手部分は欠落している。151～158は土錐。159・160は土製支脚で、中実支脚である。161・162は製塙土器の底部片である。252・253は木製品。252には直径4mmの孔が開けられており、木札と考えられる。253は小型容器の底などの用途を考えられるが、詳細は不明。

中世の遺物 230～233は中世土師器。全て手づくね成形の皿である。230は体部が底部から緩やかに立ち上がり、口縁端部が尖る。231は平らな底部から頸れを持って立ち上がる。232・233は底部から強いナデにより体部を立ち上げる。230は14世紀、231～233は15世紀末から16世紀初頭。234は青白磁の瓶類の体部小破片で、外面に梯状具による階草紋が施される。稚は青緑色を帯びた白色を呈し、外面には施釉されるが、内面は無釉である。235・236は珠洲。235は壺の底部片である。236は擂鉢で、3cmに13条の御目を持つ。外底面に回転糸切り痕がある237は瓦質土器で、内面が焦げた痕が見られる。

近世の遺物 238～246は越中瀬戸。238～243は皿で、全て高台は削り出しであり、稚は内壳で、外底面は無釉である。239・240・242・243は見込みに釉止めの段を持つ。238～240は灰釉、241～243は鎧釉を施す。244～246は小壺である。244は外底面を除く全面に灰釉を施す。245・246は外面に鎧釉を施し、外底面は無釉である。244・246は回転糸切り痕がある。247は匣鉢で、全面に鎧釉を施す。252は唐津の擂鉢の底部片である。248・249は近世磁器の碗である。250は近世陶器の底部片である。251は近世陶器の擂鉢である。

小結 試掘調査では古代の遺構・遺物・中近世の遺物を確認した。古代の遺構面は1面と2面の場所があるが、2面

の時期にはあまり開きがなく、出土遺物は8～9世紀を中心とするものである。試掘調査では古代の遺物が多量に出土したもの、堅穴住居跡は検出していない。現・旧耕作面に伴う暗渠が複数に入れられていた事や、水位が高く短時間で水が湧いた事から、遺構の遺存状況を確認していく状況にあったことが原因だろうか。尚、遺跡北部で行われた公符事業外の試掘調査（Ⅲ章-1参照）では、古墳時代後期、古代、近世以降の遺構・遺物が確認されている。

(12) 板倉I・II遺跡（第6次試掘調査、第25図）

概況と層序 板倉I・II遺跡は南北に近接する遺跡であり、調査でも同様の状況が認められた。基本層序は、1層：黄灰色シルト（耕作土）、2層：灰色シルト、3層：旧河川覆土、4層：灰黄色等砂（地山）となる。なお、調査区南側に伸びる道路より西側では、旧耕作土・床土を1～2面確認した。

小結 調査区には埋没河川が数条確認された。板倉II遺跡から近世陶磁器が出土したが、両遺跡とともに遺構は無く、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(13) 洋島I遺跡（第4次試掘調査、第15図）

層序 基本層序は、1層：灰褐色土（耕作土）、2層：灰色土、3層：黄褐色砂質土、4層：疊混褐色砂質土（地山）となる。

小結 潤戸美濃が出土したが、遺構は無く、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(14) 道場I遺跡（第3・5・6次試掘調査、第21・32図）

概況と層序 北東には道場II遺跡、東には中名V遺跡がある。基本層序は、1層：耕作土、2層：灰色シルト、3層：灰色シルト質砂、4層：赤褐色砂質シルト（中世遺物包含層）、5層：暗褐色シルト質砂（中世遺物包含層）、6層：灰色シルト質砂・暗褐色砂質シルト、7層：疊（地山）となる。北側では基本的に3～5層の堆積が見られない。

遺構 中世の井戸、土坑、石列、ピット、溝などの遺構（一部近世）を検出した。

遺物 須恵器、中世土師器、珠洲、瓦質土器、瀬戸美濃、青磁、白磁、八尾、越中瀬戸、伊万里、丸山、肥前系陶器、砥石、銅製品、鉄、炉壁、骨片などが出土している。

中世の遺物 255～262は中世土師器で、全て手づくね成形である。255は器高が低く体部・口縁部が緩やかに内湾する。256は平底で口縁部が直立する。257は体部が外反ぎみに開き、口縁部下端は強く横ナデするため窪む。258は器高が低く丸底で、口縁部を一段ナデし外反ぎみに開く。259は一段ナデで、やや丸みのある平底から内湾する体部となる。260は口縁部を一段ナデし外反ぎみに開く。261は大型で器壁が厚い。丸底で、体部はほぼ直線的に開き、口縁端部は先細りする。内面の横ナデ幅は3cmと広く、2回程なでているようである。262は口縁部内面が溝状に浅く窪む。255・259は14世紀、256は15世紀、257・258・260は15世紀末から16世紀前半、261・262は16世紀後半。263～269は珠洲。263・264は壺で、V期に比定できる。265～268は擂鉢。265・266は口縁部で直線的に開き、端部は水平に面をとり横目波状文で加飾する。267・268は底部で、267は一单位2.7cm当たり10目太めの擂齒原体が、268は一单位1.3cm当たり7目の細めの擂齒原体が使用される。265～267はIV期、268はIII期に比定される。269は壺底部である。270は青磁の碗で、暗黄色の釉を掛け、口縁は外反し端部は外側に肥厚する。上田分類のD II類に相当する。271・272は瀬戸美濃の皿。271は腰折直で、内面全体と外面上方に灰釉を掛けた。唐宋末期。272は折縁深皿で底部を除いて灰釉を掛け。273～275は八尾。273は壺の口縁部で、やや発達したN字状を呈する。酒井分類の第2群a類に比定される。274・275は壺の底部で、275は内面に指圧痕が残り炭化物が付着する。276は砥石で、断面形が方形で柱状を呈し、片方の端部が黒く焼けている。

近世・近代の遺物 277～282は越中瀬戸。277～280は内壳の丸皿で、削り出し高台である。277・279・280は灰釉で、277は見込みに菊の印花文を押捺する。278は铁釉で内外面に煤が付着する。281は丸碗の底部で、内外面に铁釉を掛け、回転糸切り痕がある。282は壺頸の底部で、内外面に铁釉を掛け、回転糸切り痕がある。283は肥前系陶器の擂鉢。口

縁部が外反する器形で、卸目は密に引き上端は揃える。全面に鉄輪が施される。

小結 試掘調査では中近世の遺構・遺物を確認した。14世紀から16世紀にかけてのものが主で、遺構面は南側では中世2面、北側では中世1面であり、一部には近世の遺構もあると考えた。その後、財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所（以下、財団という。）により本調査が行われ、近世の田畠、中世（14世紀～16世紀）の集落、中世以前の畠があったことが分かった。尚、地元の人の話によると、調査区北側の舟木家は江戸時代には代々庄屋を務めていたということであった。また、その屋敷のすぐ南側には「医者の屋敷跡」が、調査対象地の南側では「尼寺」があったという伝承があるらしい。

(15) 道場Ⅱ遺跡（第3・6次試掘調査、第21・32図）

概況と層序 南西には道場Ⅰ遺跡、東には中名Ⅵ遺跡がある。基本層序は、1層：（耕作土）、2層：暗灰色シルト質砂、3層：灰色砂質シルト（遺構確認面）、4層：暗灰色シルト質砂、5層：灰色シルト質砂となる。

遺構 石列、土坑、ピットを検出している。

遺物 中世土師器、珠洲、瀬戸、青磁、越中瀬戸、唐津、伊万里、箸が出土している。284は越中瀬戸の擂鉢、285は皿でともに鉄輪を掛ける。

小結 明らかに遺構に伴うと思われる遺物は無いため時期は不明であるが、遺構が中世末頃と思われる旧河道が埋没した後にできており、近世以降に下る可能性がある。尚、中世の遺物の殆どが3層以下の出土である。

(16) 中名Ⅰ（・Ⅲ）遺跡（第1・3・6次試掘調査、第23・33図）

概況と層序 北西は中名Ⅴ遺跡と接し、東は中名Ⅱ遺跡に接する。基本層序は、1層：茶褐色土（耕作土）、2層：灰色シルト（中世遺物包含層）、3層：褐色シルト、4層：淡灰褐色砂質土、5層：暗灰褐色粘質土（中世遺物包含層）、6層：暗茶褐色粘質土（古代遺物包含層）、7層：灰色粘質土（地山）、8層：赤褐色粘質土（地山）となる。

遺構 溝、土坑、ピットを検出した。

遺物 土師器、須恵器、土鍤、中世土師器、珠洲、青磁、越中瀬戸、瓦質土器、近世陶磁器が出土している。

古代の遺物 286～296は須恵器である。286～290は杯蓋である。端部は、286～288が丸く、289が内側に巻き込み、290がやや外側に出るようにして立つ。9世紀後葉。291～294は杯。295・296は短頸壺で、295は口縁部がやや開き気味に立ち上がり端部が内側に段をなして立つ。296は口縁部が直立し端部を丸くおさめる。297は土鍤で、長さ4.8cm、幅3.4cm、穴径1.4cmを測り、片方の端部を面取りする。298～302は古代土師器。298～300は輪で、300は回転糸切り痕が残る底部。301・302は甕で、301は内側に段をなして立ち、302は口縁部が内側に肥厚する。ともに9世紀。

中世の遺物 303～311は中世土師器。303・304はロクロ成形で、303は体部・口縁部が内湾し、304は底部で回転糸切り痕がある。305～311は手すくね成形。305～307は体部・口縁部が内湾する。308は器體が薄く、体部が内湾し体部下端に指揮さえ痕が残る。309・310は平底で、口縁部が一段ナードで外側に強く反る。311は体部が直線的に開き、口縁部を上方に摘み上げる。303・304は12世紀後半～13世紀前半、305～307は14世紀、308は15世紀、309～311は15世紀末～16世紀前半。312～318は珠洲、312～314は甕。312は口縁部を水平に挽き出し、口縁端面が窪んだ方頭を呈する。Ⅱ期に比定される。315は甕の底部。316～318は擂鉢で、316は器体が内湾して立ち上がり、口縁端面が窪んだ方頭を呈する。317は器体が緩やかに内湾して開き、口縁端部は方頭を呈する。318は外傾口縁で、内端が爪状になり、細密な卸目を施す。316はⅠ期、317はⅠ～Ⅱ期、318はⅡ期に比定される。319・320は青磁の碗で蓮弁文を施す。輪は319がオリーブ色、320が緑色を帯びた青灰色を呈する。

近世の遺物 321は越中瀬戸の内禿皿の底部で、灰釉で内底面に釉止めの段がある。

小結 試掘調査では古代・中世の遺構・遺物が確認された。遺構面は古代1面（9世紀中葉～後葉）、中世2面（12世紀後半～13世紀前半、15世紀末～16世紀前半）である。尚、その後の財団による本調査により、古代・中世前半頃、

中世後期～近世、近代の遺構・遺物が確認され、本遺跡は古代から近世に至るまで断続的に形成された集落であり、近世以降には田畠となつことが分かった。

(17) 中名Ⅱ遺跡（第1・2次試掘調査、第23・35図）

概況と層序 北は持田Ⅰ遺跡、西は中名Ⅰ遺跡に近接する。基本層序は、1層：耕作土、2層：床土、3層：褐灰色シルト（中世遺構面）、4層：黄灰色シルト質砂（中世遺物包含層）、5層：にぶい黄褐色シルト（中世遺構面）、6層：にぶい黄橙色シルト（地山）となる。

遺構 溝、土坑、ピットを検出した。

遺物 中世土師器、珠洲、瀬戸美濃、瓦質土器、越中瀬戸が出土している。386は古代土師器の壺で、口縁部が内側に段をなして立つ器形。9世紀。387～393は中世土師器。387～389は二段ナデで、口縁端部を面取りし体部に一段のナデを施す。器壁は厚い。390は器高が低くやや丸みのある平底で体部・口縁部が内湾する。391・393は、口縁部は一段ナデでやや外反し端部が先細りする。392は、体部がやや内湾しながら開き、口縁部が外側に強く反る。387～389は12世紀、390は14世紀、391～393は15世紀末～16世紀前半。394は珠洲の擂鉢。構造原体は幅広く一単位3.5cm当たり16目で、使用により磨耗している。395は瓦質土器の底部で回転糸切り痕が残る。396は越中瀬戸の底部で外外面に灰釉を掛ける。小杯もしくは壺類であろうか。

小結 試掘調査では中世の遺構・遺物を確認し、遺構面は中世2面（12世紀、15世紀末～16世紀前半）であると考えた。その後、婦中町教育委員会や財團による本調査で、本遺跡は中世集落を中心とするものであり、遺構面は古代1面（10世紀初め）、中世2面（12世紀前半～14世紀、15世紀～16世紀）の3面であることが分かった。

(18) 中名Ⅳ遺跡（第1次試掘調査、第23図）

層序 基本層序は、1層：黒褐色シルト（耕作土）、2層：暗灰黄色砂質シルト、3層：砂礫（地山）となる。

小結 遺構・遺物はともに無く、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(19) 中名Ⅴ遺跡（第5・6次試掘調査、第22・23・34・35図）

概況と層序 南は中名Ⅰ遺跡と、北は中名Ⅵ遺跡と接し、東は持田Ⅰ遺跡と近接する。基本層序は、1層：茶褐色土（耕作土）、2層：灰褐色シルト（中世末～近世遺物包含層）、3層：褐色・青灰色砂質土（地山）、4層：褐色礫混じり砂質（地山）となる。場所により2層直下に古代の遺物包含層が入る。

遺構 井戸、溝、土坑、ピットを検出している。

遺物 土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、越前、瀬戸美濃、青磁、八尾、越中瀬戸、唐津、伊万里、肥前系陶器、瓦質土器、木製品（箸、板材）、鉄が出土している。

中世の遺物 322～355は中世土師器。322～349は手づくね成形。322は器高が低くやや丸みのある平底で体部・口縁部が内湾する。323・324・327・332・342・343は一段ナデで体部は緩やかに内湾するもので、327は丸底、その他は丸みのある平底となる。325は口縁部がほぼ垂直に立つ器形。326は一段ナデで平底から直線的に伸びる体部となる。328・329・334・341は器壁が薄く、一段ナデで丸底からわずかに内湾して開く体部となる。329・334は見込みを一方に向かって後、口縁部を横ナデする。330・331・335・337～340・348・349は丸みのある平底で、口縁部は一段ナデでやや外反し端部が先細りする。333・344～346は平底から体部・口縁部が直立気味に立ち上がるもので、333・344は見込みを不整方向に撲で、345は外外面に調整痕が溝状になって残る。336・347は丸みのある平底で、口縁部が一段ナデで外側に強く反る。350～355はロクロ成形で、器壁が薄く、底径は口径に対して小さい。また底部は回転糸切りで、見込みに圓線を持つ。胎土は350～352・354が特に緻密かつ硬質である。350・351は底部と体部の境を強く撲で、体部はやや外反し、口縁端部は摘み上げて先細りする。352～355は体部がやや外反して大きく開き、口縁端部は摘み上げて先細りする。322～324・327・332・342・343は14世紀、325・326・333・344～346は15世紀、328～331・334～

341・347～355は15世紀末から16世紀前半である。356～361は珠洲である。356・361は壺で、肩の張り出しが弱い器形。IV～V期に比量される。357～360は擂鉢。357は方頭を呈する外縁口縁で、358は三角頭を呈しやや内傾する口縁である。359・360は器体がほぼ直線的に開き、三角頭を呈する内縁口縁の罐面を横目波状文で加飾する。鉗目は、359は一単位3cm当たり11目の中太の櫛歯原体で器面を隙間無く埋め、360は一単位2.4cm当たり9目の中太の櫛歯原体で密度高く施入する。357はIV期、358はIV～V期、359・360はV期に比量される。362は鉄製の鉗か切羽で、透しが入る。直径5.0cm、厚さ0.4cmで、下方両面に花紋が施される。363・364は瀬戸美濃。363は15世紀中葉の直縁大皿で、364は折縁深皿。365・366は青磁。365は後花皿で、明るい灰緑色の釉を掛け、内面に櫛状工具と篦状工具による文様を施す。366は皿もしくは碗の底部で、オリーブ色の釉を掛けた。

近世の遺物 367～369は越中瀬戸。367は丸皿で、釉止めの段があり、灰釉を内壳にして掛けた。高台内には墨書で「十」を記す。17世紀前葉～中頃。368・369は擂鉢の底部で、369には内面に炭化物が付着する。370～373は唐津。370～373は皿で、370は嬉野の銅線釉系陶器で内底面を蛇の目釉剥ぎする。体部外下半には透明な釉を掛けた。18世紀。371は内面に胎土跡が残り、底部外側以外に灰白色の釉を掛けた。16世紀末。372・373は刷毛目唐津の鉢である。373は高台を高く削り出す器形で、内面には同心円状の刷毛目を施し、蛇の目釉剥ぎされた部分に重ねて焼いた際の粘土が付着する。底部外側は無釉で、体部下半の外側は透明な釉を掛けた。374は肥前系陶器の擂鉢の底部で、高台を高く削り出す器形。375は伊万里の白磁の小型品で、外側に菊花の型押しを施す。玩具か。376～385は両端を細く削り出す両口箸である。384は20cm、385は22cmを測り、その他の欠損している。

小結 試掘調査では、中世末～近世（15世紀～17世紀）の遺構・遺物、中世中頃（14世紀）の遺物、古代の旧河道と遺物を確認した。その後、財団による本調査で、古代（8世紀～9世紀）、中世中頃、中世後半～近世の遺構・遺物が確認され、古代から近世に至るまで断続的に形成された集落遺跡であることが分かった。

(20) 中名V遺跡（第5・6・7次試掘調査、第22・36図）

概況と層序 南は中名V遺跡と接し、北は砂子田I遺跡と接近する。基本層序は、1層：黄灰色シルト（耕作土）、2層：旧耕作土・床土（1～3面分）、3層：灰色シルト（中世上層遺物包含層）、4層：灰色シルト・場所によって砂混入（中世下層遺物包含層）、5層：灰オリーブ砂質シルト、6層：オリーブ黒色シルトや粘質・東側では砂多く含む（古代遺物包含層）、7層：灰オリーブ砂質シルト炭粒混（古代遺物包含層）、8層：灰オリーブ色砂質シルト・灰色粘質土など（地山）、9層：灰色砂砾（地山）となる。東側は堆山面が高く、古代の遺物包含層・遺構のみが残る。7層は古代の遺物が少量混じる層で、T25～28でのみ確認される。遺物からは6層と明確な時期差は認められない。

遺構 溝、土坑、ピット、井戸を検出している。T28には焼土を含む土坑を検出している。

遺物 土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、八尾、越中瀬戸、伊万里が出土している。

古代の遺物 411～423は須恵器。411～420は杯である。411・413～415は高台の付かないタイプで、413は丸底、その他は平底である。417～420は高台の付くタイプ。421・422は杯蓋。421は端部を内側に巻き込み、422は丸い。423は高台が付く壺の底部。424～437は土師器。424は盤で、外側に煤が付着する。425～437は壺。425・426は口縁端部がやや瘤み、外側に摘みだす。427・428は口縁端部に面を取る。429～434は口縁部が内側に段をなして立つ。436・437は口縁端部が内側に丸く肥厚する。435は口縁部が「S」字状になる。425～428は8世紀、429～437は9世紀。

中世の遺物 438～445は中世土師器。438・439はロクロ成形。440～445は手づくね成形。440は口縁部に強い一段ナデが見られる。441～443は一段ナデで、やや丸みのある平底から内湾する体部となる。444・445は丸底風で口縁部が外反する。435・439は12世紀後半、440は13世紀前半、441～443は15世紀、444・445は15世紀末～16世紀前半。446は青磁の碗。鏡書きの細蓮弁文で、釉はオリーブ色を呈する。上田編年B IV類（15世紀後半～16世紀初め）に比定される。

447は白磁の口禿皿。平らな底部で、体部・口縁部はほぼ直線的に開き、釉はやや水色がかった白色である。大宰府編年Ⅸ類（13世紀中葉～14世紀中葉）に比定される。448は珠洲の措鉢の底部で、鉢目は使用によって磨耗している。吉岡編年のⅩ期に比定される。449は八尾の措鉢の底部で、焼成は堅密であるが断面は中心部が黒色を呈する。

近世の遺物 450～454は越中瀬戸。450～453は内禿皿。450は丸皿で灰釉を薄く掛ける。451は折線皿で灰釉で釉止めの段があり、外面には沈線を施す。16世紀末～17世紀初め。452・453は削り出し高台で鉄釉を掛ける。454は、丸碗の底部で、削り出し高台で鉄釉を掛ける。455は伊万里の皿。見込みを蛇の目釉剥ぎし、内面には二重格子文を描く。底部は逆台形状に削り出している。18世紀代。

小結 試掘調査では、古代・中世の遺構・遺物が確認された。遺構面は、古代（8世紀～10世紀前半）、中世前半（12世紀末～14世紀）、中世末～近世初め（16～18世紀）の3面を確認したが、西端部では中世上層のみ、北東部では古代のみとなる。遺跡西端には古代から中世の谷地形が伸びている。

(21) 持田I遺跡（第4・5次試掘調査、第22・23・35図）

概況と層序 西は中名I・V遺跡と、南西は中名II遺跡と近接する。基本層序は、1層：灰褐色土（耕作土）、2層：黄褐色土、3層：淡黃白色土（中世遺物包含層）、4層：灰色砂質土（中世遺物包含層）、5層：暗茶褐色土（中世遺物包含層）、6層：灰白色砂質土・茶褐色礫（地山）となる。

遺構 ピット、土坑、溝を検出している。

遺物 古代土師器、中世土師器、青磁、瀬戸美濃、越中瀬戸が出土している。406～408は中世土師器。406・407は体部が直線的で、口縁は先細りする。15世紀末～16世紀前半。408は一段ナデで体部は内湾し、丸みのある平底となる。14世紀。409は青磁の碗で、オリーブ色の釉を掛ける。410は越中瀬戸の丸碗で、鉄釉を掛ける。

小結 試掘調査では中世の遺構・遺物包含層を確認した。その後、財団による本調査で、中世前半（13世紀～14世紀）、中世後半、近世～近代の遺構・遺物が確認され、中世の集落遺跡であることが分かった。

(22) 持田II遺跡（第4次試掘調査、第22図）

層序 基本層序は、1層：灰褐色土（耕作土）、2層：淡灰褐色土、3層：灰白色砂質土・茶褐色礫（地山）となる。

小結 調査区内には埋没河川を確認している。中世土師器、瀬戸美濃、白磁、砥石が出土したが、遺構は無く、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(23) 下井沢I遺跡（第1次試掘調査、第24図）

層序 基本層序は、1層：オリーブ黒色砂質シルト（耕作土）、2層：オリーブ黒色砂（地山）、3層：灰オリーブ色砂（地山）、4層：灰色砂礫（地山）となる。

小結 遺構・遺物はともに無く、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(24) 下井沢II遺跡（第1次試掘調査、第20図）

層序 基本層序は、1層：暗オリーブ褐色砂質シルト（耕作土）、2層：砂礫、3層：黒褐色シルト、4層：河川の堆積、5層：砂礫（地山）となる。

小結 1層直下で、堤防状の積み石や土留めの杭を検出したが、近世以降のものと思われる。近世陶磁器が出土したが、遺構は無く、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(25) 清水島I遺跡（第1次試掘調査、第24・35図）

層序 基本層序は、1層：黄灰色シルト（耕作土）、2層：灰黄色砂質シルト、3層：河川の堆積、4層：砂礫（地山）となる。

遺物 珠洲、瀬戸美濃、瓦質土器が出土した。397は灰釉を掛ける瀬戸美濃系の陶器の底部で、見込みを蛇の目釉剥ぎする。398は瓦質土器。

小結 遺構は無く、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(26) 清水島Ⅱ（・IV）遺跡（第1・2次試掘調査、第24・35図）

概況と層序 遺跡近傍には、北東は堀Ⅰ遺跡がある。基本層序は、1層：耕作土、2層：床土、3層：褐色砂質シルト（中世遺物包含層）、4層：褐色シルト質砂または疊（地山）となる。

遺構 潟、土坑、ピットを検出した。

遺物 中世土師器、珠洲、瓦質土器、近世陶磁器が出土した。399～401は中世土師器で、399は薄手で器高が浅く、平底からやや外反して開く体部・口縁部となる。400・401は薄て丸底で、体部がやや内湾ぎみに開き、口縁部が先細りする。400は見込みを刷毛状工具で施る。全て15世紀末～16世紀前半。402は越中瀬戸の丸皿で、口縁部のみ灰釉を掛ける。403は珠洲の擂鉢で、櫛歯原体の幅は2.8cm以上で、目は浅く間隔が2mmと粗い。

小結 試掘調査では、中世の遺構・遺物を確認した。その後、財団による本調査で、中世（13世紀～16世紀）から近世にかけて営まれた集落遺跡であることが分かった。

(27) 清水島Ⅲ遺跡（第1次試掘調査、第24・35図）

層序 基本層序は、1層：黄灰色シルト（耕作土）、2層：灰黄色シルト、3層：河川の堆積、4層：砂疊（地山）となる。

遺物 中世土師器、珠洲が出土した。404は中世土師器で、体部が外反ぎみに開き、口縁部下端は強く横ナアするため窪む。15世紀。405は珠洲擂鉢で、三角頭を呈する内傾口縁の端部を櫛目波状文で加飾する。V期に比定される。

小結 遺構は無く、散布していた遺物は流れ込みと思われる。

(28) 堀Ⅰ遺跡（第4次試掘調査、第23図）

概況と層序 遺跡近傍には、南西は清水島Ⅱ遺跡、北西は道場Ⅰ・Ⅱ遺跡、北～東は中名遺跡群がある。本遺跡は東西2地区に分かれる。基本層序は、1層：黄灰色砂質シルト（耕作土）、2層：暗灰黄色砂質シルト、3層：黄褐色砂質シルト（旧床土）、4層：黄褐色+褐色シルト質砂粒状、5層：灰黄色+褐色シルト、6層：疊（地山）となる。

遺構 中世の塙状遺構と近世の集石遺構が確認された。

遺物 塙状遺構には五輪塔、石仏が残されており、上面や内部から中世土師器、珠洲、越前、瀬戸、八尾、越中瀬戸、丸山、伊万里、近世陶磁器、土製品、硯、骨片が出土した。近世墓からは骨壺と思われる越中瀬戸、炭化物、骨片が出土した。

小結 中世の塙状遺構と近世墓が確認された。その後、婦中町教育委員会による本調査で、中世の配石墓が確認されている。塙状遺構の試掘調査と中世の配石墓の本調査については、『富山県婦中町堀Ⅰ遺跡発掘調査報告書』（婦中町教育委員会1996）に記述してあるので割愛する。

III カドミ汚染地区におけるその他の調査

1 公特事業区域外の試掘調査

汚染地域では、公特事業区域外でも様々な開発が行われている。当事業を機に発見された遺跡推定地12箇所においても、そのような開発に先立つ試掘調査を19回にわたり実施した。開発原因には個人住宅建築・資材置場造成・町道敷設などの他、汚染された土地を水田以外に有効利用するために計画された分譲住宅造成や商業用地造成などの大規模開発も挙げられる。うち、遺構の遺存が確認されたのは砂子田I遺跡（平成9年度調査）・鶴坂I遺跡（平成9・10年度）・中名V遺跡（平成10年度調査）の3件であった。また、増田I遺跡（平成9年度調査）については、全域を試掘調査した結果、遺構の遺存は確認されず消滅した。以下、遺構・遺物の遺存を確認した遺跡について記述する。

砂子田I遺跡（第37図）

試掘調査対象地は遺跡推定地の北西部である。調査ではピット、土坑、溝等の遺構を確認した。調査区中央部は田の整備の際に削平を受けている。出土遺物は古式土師器（482~485）、古代土師器（486~489）、須恵器（490~501）、土錘、土製支脚（503・504）、近世陶磁器、紅皿、漆器、皇宋通宝（505）等があり、主に古墳時代（6世紀~7世紀初頭）、古代（7世紀中葉~8世紀・9世紀~10世紀）を中心とする。尚、南側で行った公特事業の試掘調査では、古代の遺構・遺物の拡がりが確認されている。

番号	期間 (実働日数)	調査原因	遺跡推定地名	対象面積 (m ²)	発掘面積 (m ²)	遺構・遺物 包含層の 有無	備考
1	H 6.10.3~10.4 (2日間)	町道敷設工事	砂子田 I	6,300	498	無	
2	H 7.3.15 (1日間)	個人住宅建築	板倉 II	752	46	無	H 9 遺跡消失
3	H 7.12.15 (1日間)	資材置場造成	砂子田 I	1,000	32	無	
4	H 7.11.27 (1日間)	テニスコート造成	鶴坂 I	1,945	87	無	
5	H 8.5.28~5.30 (3日間)	宮島川小規模河川改良事業	西本郷	17,610	420	無	H 10 遺跡消失
6	H 8.10.25~10.30 (4日間)	商業用地造成事業	下巻田 I	15,567	786	無	
7	H 8.11.14 (1日間)	個人住宅建築	羽根新 I	397	10	無	H 9 遺跡消失
8	H 8.11.13~11.18 (4日間)	宮島川小規模河川改良事業	西本郷	6,000	420	無	H 10 遺跡消失
9	H 9.6.25 (1日間)	個人住宅建築	下巻田 I	842	25	無	
10	H 9.9.9 (1日間)	賃貸住宅建築	下巻田 I	1,913	56	無	
11	H 9.9.22~12.6 (59日間)	分譲住宅造成	砂子田 I	90,240	2,851	有	
12	H 9.11.11~12.7 (19日間)	分譲住宅造成	増田 I	44,815	1,054	無	H 9 遺跡消失
13	H 9.9.30 (1日間)	個人住宅建築	田島 I	1,836	72	無	H 10 遺跡消失
14	H 10.8.25~8.26 (2日間)	町道敷設工事に伴う住居 移転建築	中名 V	733	40	有	
15	H 10.7.1~11.7 (34日間)	分譲住宅造成	鶴坂 I	35,972	3,080	有	
16	H 10.11.6~12.5 (20日間)	分譲住宅造成	宮ヶ島 II	19,300	761	無	
17	H 10.11.6~12.5 (20日間)	分譲住宅造成	田島 I	14,000	466	無	H 10 遺跡消失
18	H 10.11.10 (1日間)	資材置場造成	下巻田 I	2,094	40	無	
19	H 10.12.3~12.5 (3日間)	分譲住宅造成	宮ヶ島 I	2,752	76	無	H 10 遺跡消失

第3表 カドミ汚染地区における公特事業区域外の試掘調査一覧

鶴坂Ⅰ遺跡（第10・37図）

試掘調査対象地は遺跡推定地の北東部である。遺構はピット、土坑、溝等である。調査区西側の自然堤防上には公特事業の試掘調査で確認した中世遺構が伸びていた。その東側の低地には神通川氾濫の際の旧流路と思われる落ち込みが数条あり、流路の間には中央に南北にのびた低い微高地が残されていた。遺構・遺物はこの微高地と自然堤防上にあり、旧流路には遺物が流れ込んでいる。出土遺物は古式土師器、古代土師器（458～461）、須恵器（456・457）、土錐（463～466）、中世土師器（468～481）、珠洲、八尾（467）、近世陶磁器、漆器等で、主に古代（8世紀末～9世紀）、中世（14世紀、15世紀末～16世紀前半）を中心とする。

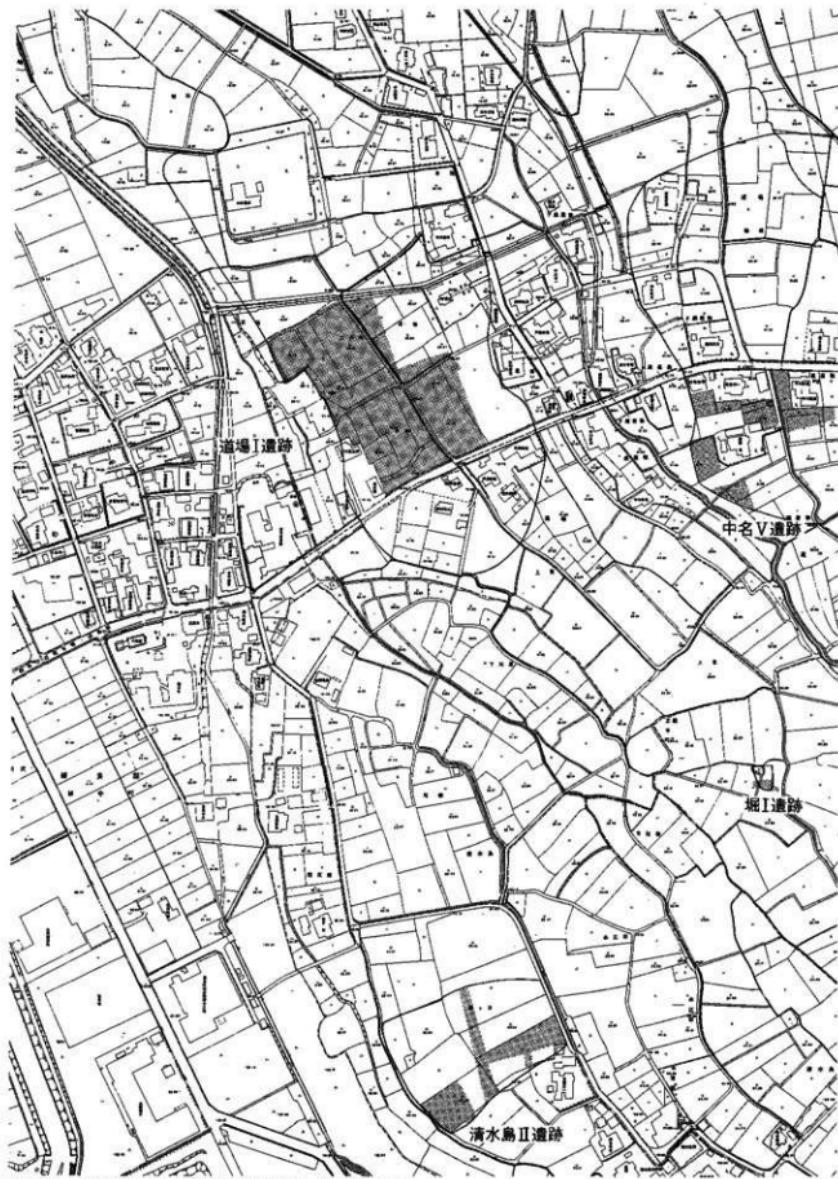
中名Ⅴ遺跡

試掘調査対象地は遺跡推定地の中央部である。財团による本調査（H 9）で発掘された古代・中世の旧河道の西側に当たり、調査対象地も旧河道が続いていることが確認された。出土遺物は中世土師器である。



第5図 カドミ汚染地区における公特事業外の試掘位置図 (1 / 25,000)

番号は第3表の番号に対応する



第6図 平成10年度までの本調査実施範囲 (1 / 4,000)



2 本調査の状況

復元工事の工法は、埋め込み客土工法（汚染土を深い溝に埋め込む）と上乗せ客土工法（汚染された面上に耕整・客土を乗せる）がある。前者の場合は当然、計画田面高によって埋蔵文化財に影響を与えることが考えられ、それに伴い本調査による記録保存が必要になってきた。

本調査範囲については、試掘調査の結果に基づき田面調整を行って決定した。最初の平成5・6年度は、文化財サイドからは婦中町教育委員会・県文化課・県埋蔵文化財センター、農地サイドからは県耕地課・県農地林務事務所・婦中町農地課により度重なる協議を行い、今後の進め方や田面調整の方法を検討した。田面調整では、遺構・遺物包含層の高さに保護層10cmを上乗せした数値と工事の計画田面高の数値を照らし合わせ、可能な場所については工事計画を変更して遺跡を最大限保護するように努めた。それでもなお保護し得ない範囲については、農地サイドに工事状況から本調査地区の優先順位を検討してもらい、それに従って順次調査していくことになった。平成10年度までの本調査の担当機関は、平成6年度が婦中町教育委員会・富山県埋蔵文化財センター、平成7年度が町教育委員会・財団であり、平成8~10年度の本調査は全て財団が担当している。尚、堀I遺跡については重要性の高い塹状遺構部分を当事業から除外して保存することとなり、平成10年5月1日には町指定史跡となった。

本調査の方法についてであるが、平成6・7年度は本調査対象範囲の全面を調査していた。しかし、公特事業は、平成16年度までに完了させなくてはならない事業である為、調査を早急に終わらせ工事をできるだけ早く進める事が必要となった。そこで、平成8年度からは工事によって遺構・遺物包含層が影響を受ける面までを調査とすることになった。

第4表には平成11年3月現在までの本調査の状況をまとめた。第6図には本調査実施範囲を面的な完了状況が分かるよう図示した。本調査が行われていない場所と下層の埋蔵文化財が残されている場所については、将来土木工事が計画された場合、なんらかの保存措置を講じる必要がある。なお、本調査は平成11年度以降も続けられる。

期間	調査担当機関	遺跡名	発掘平面積(m ²)	主な時代	遺跡の種別
H 6. 8. 1 ~ 10. 27	婦中町教育委員会 富山県埋蔵文化財センター	中名II遺跡	4,450	中世	集落
H 7. 7. 17 ~ 10. 12	婦中町教育委員会	堀I遺跡	83	中世	墓
H 7. 7. 13 ~ 12. 18	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所	清水島II遺跡	2,820	中世、近世	集落
		中名I遺跡	456	中世	集落
H 7. 10. 27 ~ 12. 18	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所	中名II遺跡	456	中世	集落
H 8. 5. 8 ~ 12. 19	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所	中名II遺跡	2,425	中世、近世	集落
		中名V遺跡	1,217	中世、近世	集落
		持田I遺跡	6,006	中世、近世	集落
H 9. 5. 12 ~ 12. 12	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所	中名I・V遺跡	11,493	古代、中世、近世	集落
H 10. 5. 10 ~ 12. 23	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所	道場I遺跡	12,661	中世、近世	集落
		中名I・V遺跡	3,727	古代、中世、近世	集落
合計			34,301		

第4表 公害防除特別土地改良事業に係る本調査一覧

IV まとめ

平成5年度に始まった県営公害防除特別土地改良事業に係る試掘調査は、6ヶ年をかけて平成10年度に完了した。その結果、古墳時代から近世に至る11箇所の遺跡を確認した。各遺跡の位置は第7図に、詳細は第5表に一覧としている。なお、第7図・第5表に載せている残りの3箇所については、遺跡推定範囲の一部もしくは全域が当事業から外れており試掘調査が完了していない為、遺跡推定地に留まっている。宮ヶ島II遺跡・下轡田I遺跡の試掘が完了している部分については遺構を検出していない。

試掘調査結果を基に遺跡範囲を地図に落としてみると、古代から近世にかけて形成された遺跡は、式内社である熊野神社と鷺坂神社周辺に2群に分かれるようにして所在している。下記には各々について記述した。なお、神社・御厨に関しては白川裕美氏、荘園に関しては久保尚文氏の『鍋中町史』における執筆文を参考・引用させて頂いた。

1 鷺坂神社周辺地区

・この一帯も、古代から中世に営まれた遺跡である。鷺坂神社は、古代・中世の文書にもその名が多く見られ、越中国のなかでも有数の大社であったといわれる。社伝によれば治承三年（1179）に兵火によって焼失したが、その後源頼朝によって再興された。しかし、その後も戦国時代の上杉謙信の越中侵攻で兵火にあったり、神通川の転流の災害にあったりした。神社には平安時代末期の作と思われる僧形女神像と鎌倉時代初期の作と思われる男神像が残り、また神社の北側にあったとされる別当寺鷺坂寺の墓地には室町時代の石仏や石塔などがあったという。

・古代の遺物は9世紀を中心とする。遺物構成比は、土師器碗がかなりの割合を占め、須恵器や土師器の煮炊具は少量である。宇野隆夫氏は、9世紀における遺跡の性格の差にともとづく食器の様相の差異について、公的な様相の強い場ほど①食膳において土師器の須恵器に対する比率が高い②遠隔地の高級な製品が多い（しかし出土品全体の中ではごく少量）③土師器煮炊具が少ない（鉄製煮炊具を使用）ことを指摘している（宇野1988・1991）。この事から考えると本遺跡の出土遺物は、②については不明であるものの、①③の要素が当てはまり、「公的な様相」がうかがえるといえる。この頃の鷺坂神社は次々に位階を進め、9世紀後葉には越中で第3位の神階となつたとされおり、その背景に有力層の存在が感じられる。このことはまた、前述の遺物の様相との関連性があろう。

・中世の遺物の年代は、主に12世紀中頃・14世紀・15世紀末～16世紀前半で、なかでも14世紀・15世紀末～16世紀前半が多い。この地には、「神鳳抄」延文五年（1360）の記事に見えるように伊勢神宮の神領である「鷺坂御厨」があったとされ、やがては宮河莊に属するようになったという。「御厨」とは、元来天皇家・伊勢神宮・上下賀茂神社や撰闇家などに供物や食料を貢進する人々の居住地区を指していたが、人々の交易活動が活発になるにつれて11世紀末には莊園化し、貢進物は交易活動の税として課せられるようになったという。本遺跡では、10世紀以降遺物が激減し衰退もしくは断絶したと考えられるが、12世紀中頃に遺物が再び見られるようになり、14世紀に更に増加している。中世初期に見られるこの変化は、御厨が設置された事を示唆しているとも考えられるが、なお検討を要する。ともあれ16世紀後葉以降には、上杉謙信による兵火を受けたという頃を境にして、この地は再び衰退し遺物が激減する。

・試掘調査ではすぐ東に流れる神通川の氾濫の影響や後世の削平により遺構の遺存状態が良くないことが判明したが、出土遺物の時期は古文書・伝承によって伝えられてきた鷺坂神社や鷺坂御厨の歴史と合致する部分が多く、それらを裏付ける資料となった。古代の遺物構成や古文書から分かるようにこの地は古くから栄え、当時はもっと広い範囲で集落が営まれていたことが推測される。

2 熊野神社周辺地区

- この一帯では、中名地区から砂子田地区まで遺跡群のまとまりが南北に伸びている。これらは古代から近世にかけて断続的に営まれた集落として、大きく一つにまとめて良いのかもしれない。少し離れた位置にある清水島Ⅱ遺跡や堀Ⅰ遺跡についても、地域・時代を同じくするものであり、これらに取り込まれるものであろう。なお、熊野神社は、從来から立山信仰との結びつきが指摘されており、伝承によると、久寿二年（1155）に立山山麓の五智山円福寺が萩の島に移り、為成郷十八ヶ村の惣社となったといふ。
- 9世紀における遺物構成比は、須恵器食膳具や土師器煮炊具の割合がかなり多い。同時期に営まれた繩坂神社周辺集落との性格の差異がうかがえる。
- 公特事業外の試掘調査では、砂子田Ⅰ遺跡から古墳時代後期の遺構・遺物を確認しており、この地域の歴史は予想した以上に古いようである。

3 徳大寺家領宮河荘との関わり

これまでの研究で、町内の神通川左岸地域は徳大寺家領宮河荘の荘域であったと推定されている。試掘調査ではちょうどその時代に荘域だった調査対象範囲に、前述のような2地区を拠点とする集落があったことが分かった。各集落の現地管理者である荘官は、繩坂神社や熊野神社に関わりがあるものと考え得る。

最後に

6年間に及ぶ試掘調査では、調査結果のデータに不充分な点が多くあった。しかし、ここ数年間にわたり財团を主体として実施されている本調査によって、婦中町の中世を中心とする集落構造が明らかにされつつあり、当時の町並みが想像し得るまでになってきている。今後も続く調査により、更なる資料の増加と新しい発見を期待している。最後に、本報告書では様々な文献を参考としたが、事実誤認や解釈の誤りがあれば、それは全て筆者の責任によることを述べておく。

番号	遺跡名	主な時代	遺跡の種別	面積(m ²)	備考
1	繩坂Ⅰ遺跡	奈良、平安、中世、近世	集落	106,100	
2	宮ヶ島Ⅱ遺跡	中世、近世	散布地	10,000	未調査地区
3	下曾田Ⅰ遺跡	中世、近世	散布地	59,100	未調査地区
4	砂子田Ⅰ遺跡	古墳、奈良、平安、中世	集落	147,600	
5	袋遺跡	古代	散布地	8,800	未調査地区
6	道場Ⅰ遺跡	中世、近世	集落	3,900	
7	道場Ⅱ遺跡	中世、近世	集落	60,800	
8	中名Ⅰ遺跡	平安、中世	集落	32,700	
9	中名Ⅱ遺跡	中世	集落	34,600	
10	中名Ⅴ遺跡	古代、中世、近世	集落	86,800	
11	中名Ⅵ遺跡	奈良、平安、中世、近世	集落	41,700	
12	持田Ⅰ遺跡	中世、近世	集落	11,900	
13	清水島Ⅱ遺跡	中世、近世	集落	11,500	
14	堀Ⅰ遺跡	中世、近世	墓	500	

第5表 遺跡総括表（平成11年3月現在）



第7図 遺跡分布図 (1 / 20,000)

平成11年3月現在

参考文献

- 宇野隆夫1989「二越中の国府・莊家・村落一食器の構成にみる国家と民衆—」『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』
- 宇野隆夫1991「第Ⅱ章 資料の集成と分析 四・食器」『律令社会の考古学的研究—北陸を舞台として—』桂書房
- 内田更希子1997「越中における古代土師器の編年予察」『埋蔵文化財調査概要—平成8年度—』財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財事務所
- 大橋康二1988「古伊万里」別冊太陽63平凡社
- 久保尚文1996「第3章 第1節 古代から中世へ」『婦中町史』
- 小嶋芳孝・宇野隆夫1989「3北陸における塙生産」『北陸の古代手工業生産』北陸古代手工業生産史研究会
- 財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財事務所1996「梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告（遺物編）」
- 財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財事務所1998「道場I・中名V遺跡現地説明会資料」
- 財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財事務所1996「埋蔵文化財年報（7）—平成7年度—」
- 財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財事務所1997「埋蔵文化財年報（8）—平成8年度—」
- 財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財事務所1998「埋蔵文化財年報（9）—平成9年度—」
- 財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財事務所1997「埋蔵文化財調査概要—平成8年度—」
- 財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財事務所1997「埋蔵文化財調査概要—平成9年度—」
- 酒井重洋1997「中世土師器の分類について—清水島II遺跡・中名II遺跡・持田I遺跡から—」『埋蔵文化財調査概要—平成8年度—』
- 乗川旭1992「地質考古学」『中公新書』中央公論社
- 白川裕美1996「第2章 第3節 鶴坂神社と古代社会」『婦中町史』
- 閔清1988「越中における古代前半期の土師器」「シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題」石川考古学研究・北陸古代研究会
- 富山県埋蔵文化財センター1991「富山県富山市南中田D遺跡発掘調査報告書」
- 富山県埋蔵文化財センター1994「富山県総合運動公園内遺跡発掘調査報告（4）吉倉B遺跡」
- 富山県埋蔵文化財センター1993「富山県埋蔵文化財包蔵地図」
- 婦中町1996「婦中町史」
- 婦中町教育委員会1995「富山県婦中町名II遺跡発掘調査報告」
- 婦中町教育委員会1996「富山県婦中町堀I遺跡発掘調査報告」
- 北陸中世土器研究会1992「中世前期の遺跡と土器・陶磁器・漆器」
- 北陸中世土器研究会1997「中近世の北陸—考古学が語る社会史」桂書房
- 宮内久光1996「第5章 第7節 農業改革と戦後の農業」『婦中町史』
- 宮下幸雄1996「北陸地方の歴史時代の土器」「日本土器辞典」雄山閣出版株式会社
- 宮田進一1988「越中の古代後半期の土師器」「シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題」石川考古学研究・北陸古代研究会
- 宮本幸江1996「第4章 第5節 拓かれた田畠」『婦中町史』
- 吉岡康暢1994「中世須恵器の研究」吉岡弘文館

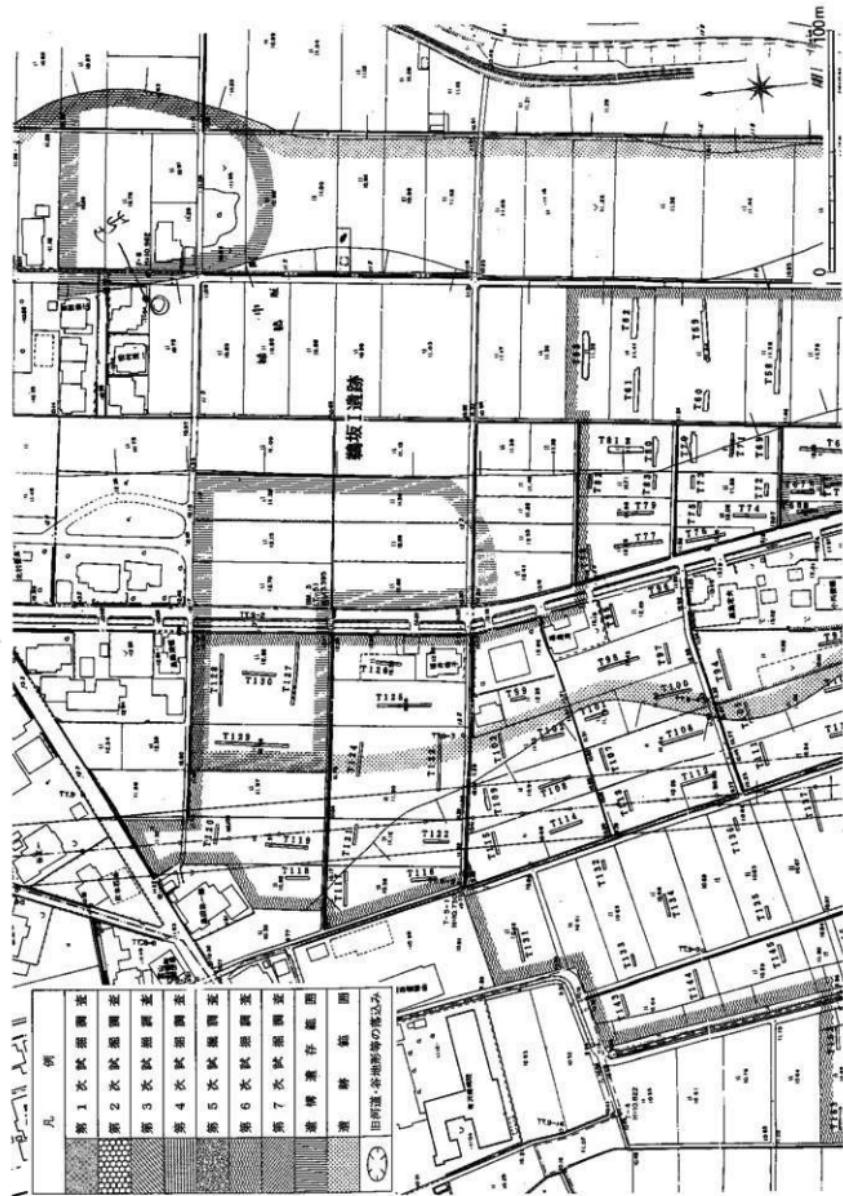


第8図 試掘調査概要図 (1/2,000)

西本郷地区



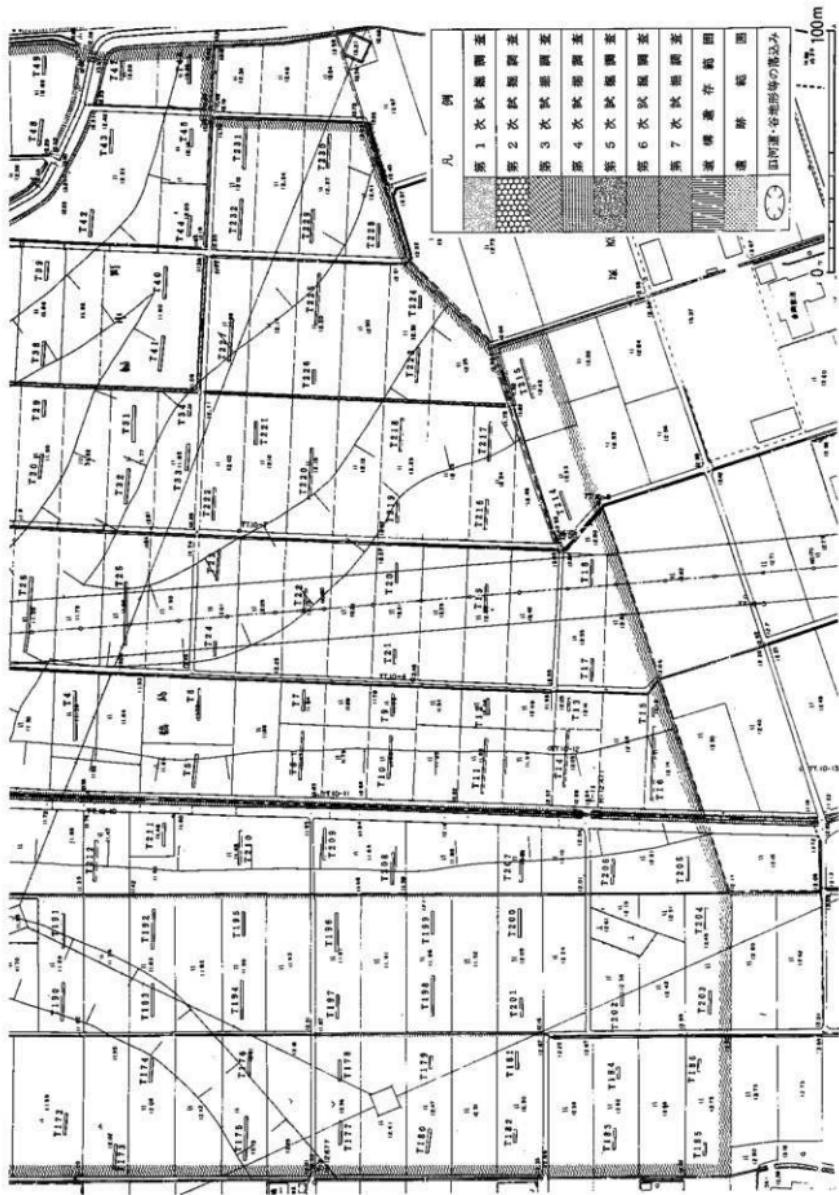
第9図 試掘調査概要図 (1 / 2,000)
羽根新地区





第11図 試掘調査概要図 (1 / 2,000)

鶴坂地区





第12図 試掘調査概要図 (1/2,000)
高ヶ島地区

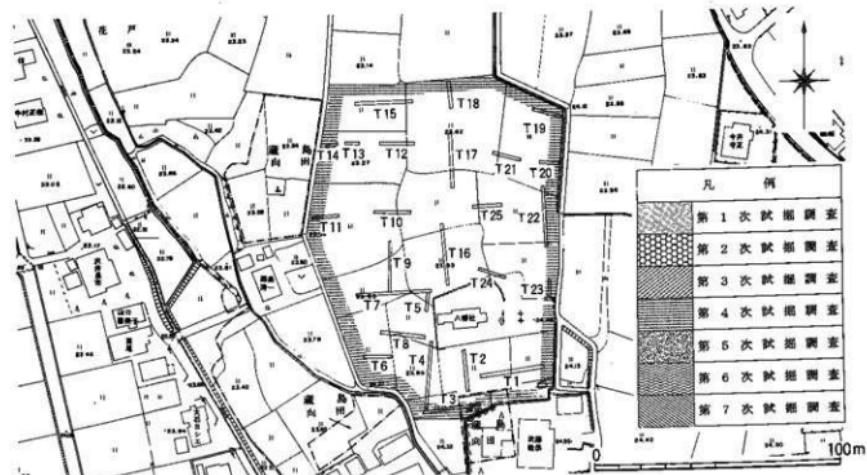


第13図 試掘調査概要図 (1/2,000)
田島地区



第14図 試掘調査概要図 (1/2,000)

塙原地区

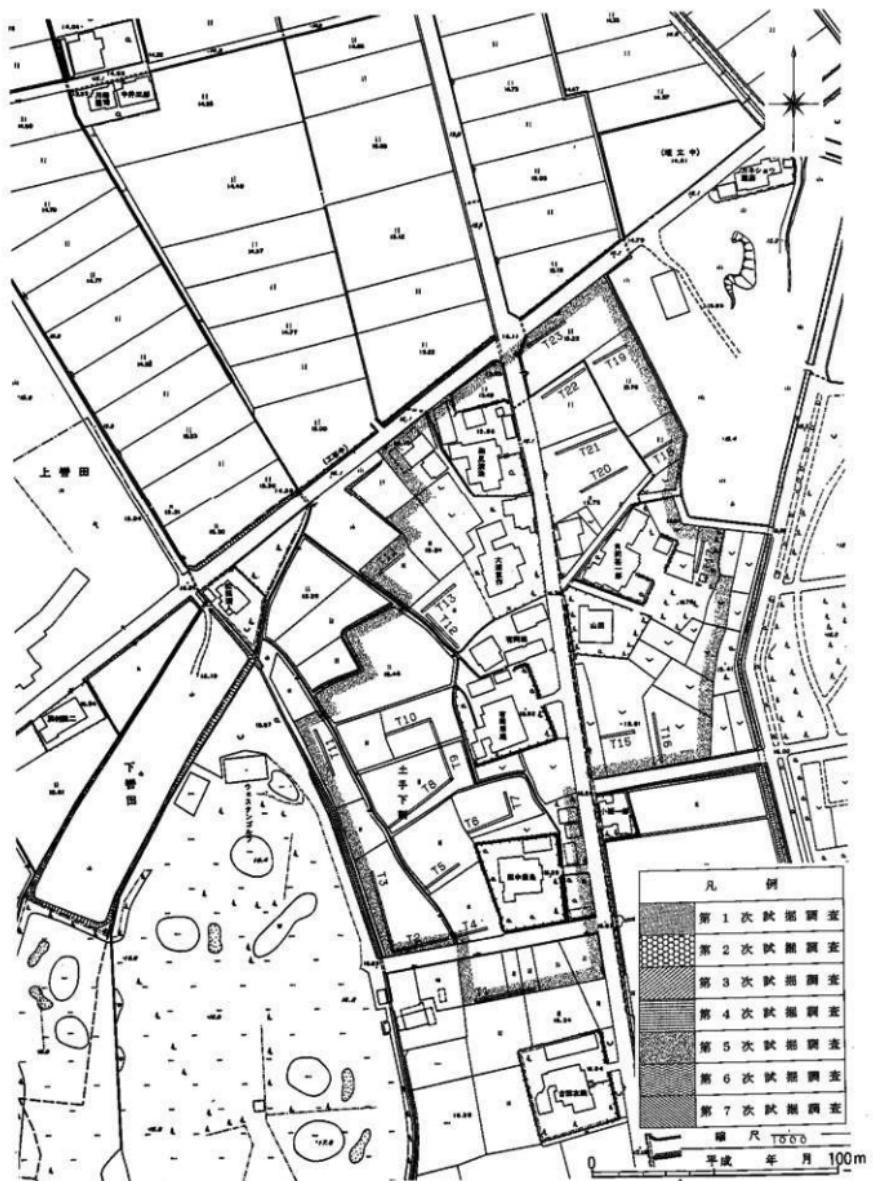


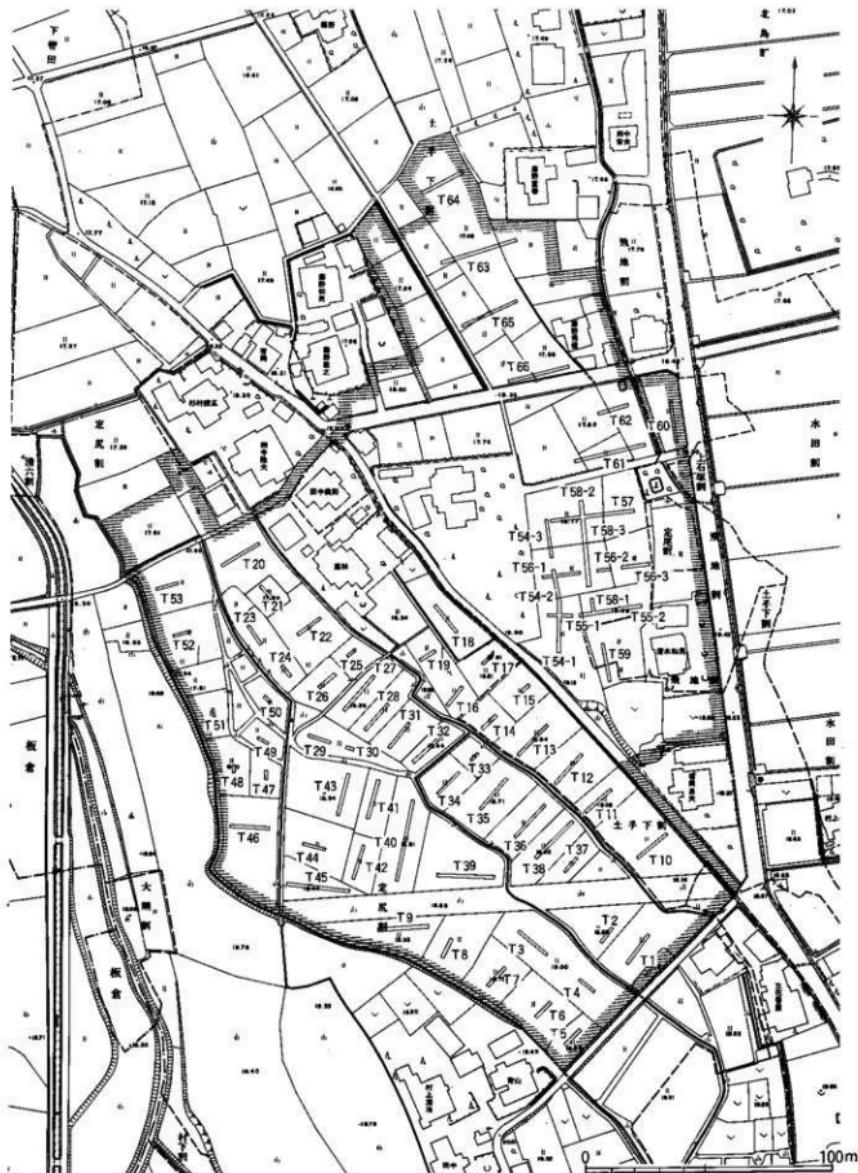
第15図 試掘調査概要図 (1/2,000) 添島地区



第16図 試掘調査概要図 (1/2,000)

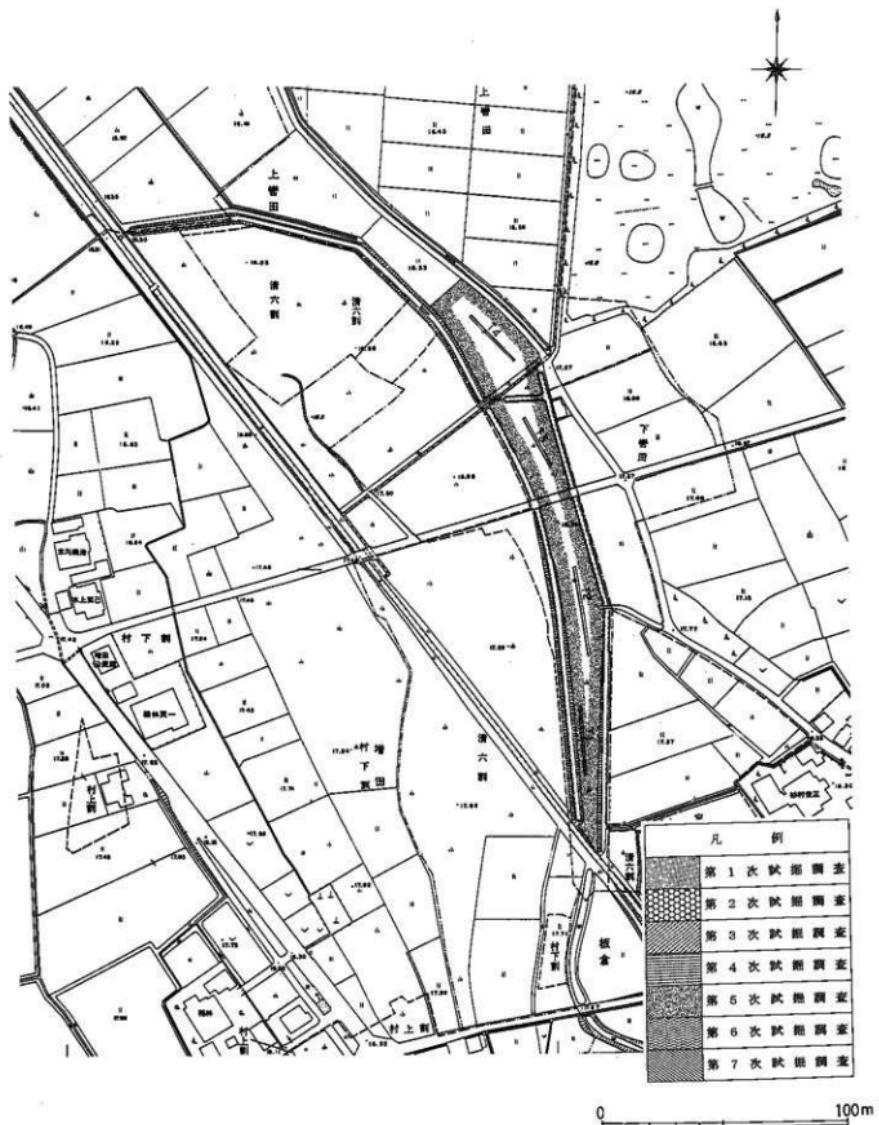
下辺田・上辺田地区





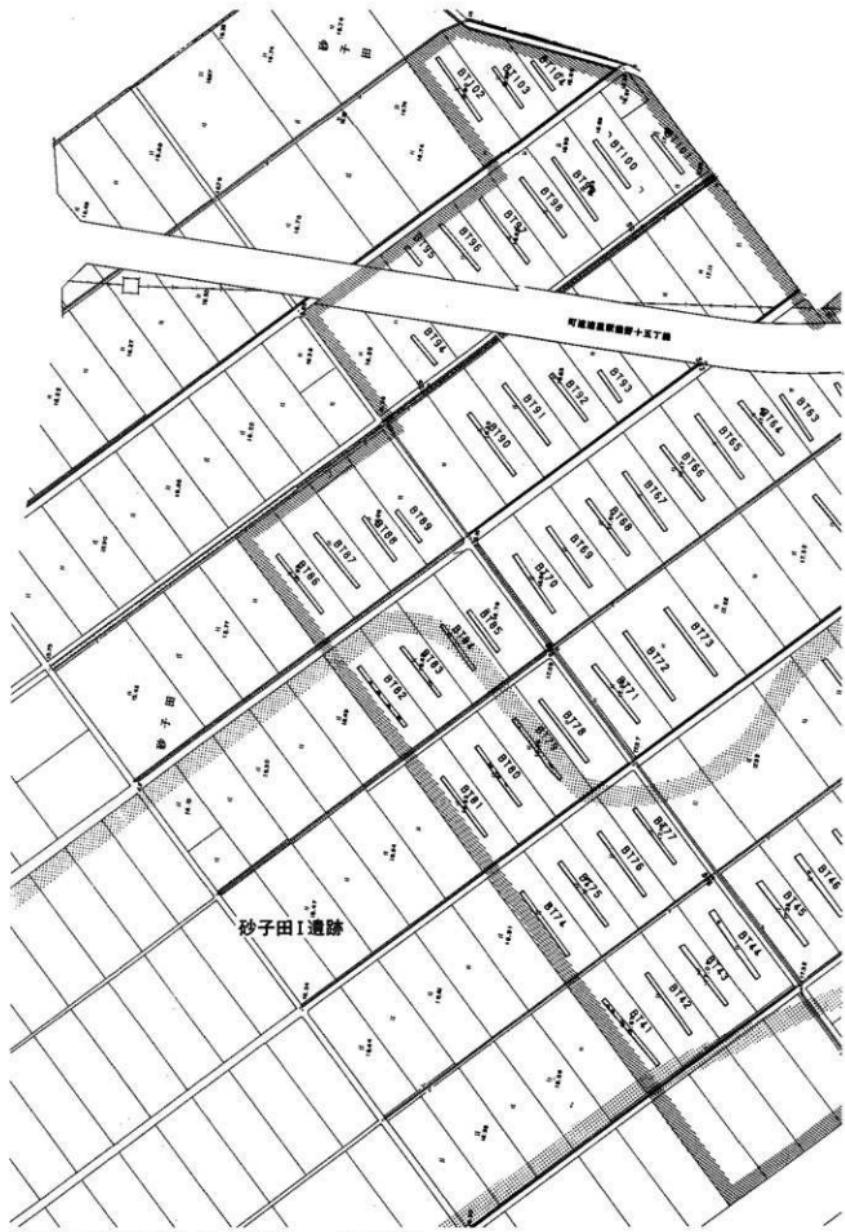
第17図 試掘調査概要図 (1/2,000)

上巣田地区



第18図 試掘調査概要図 (1/2,000)

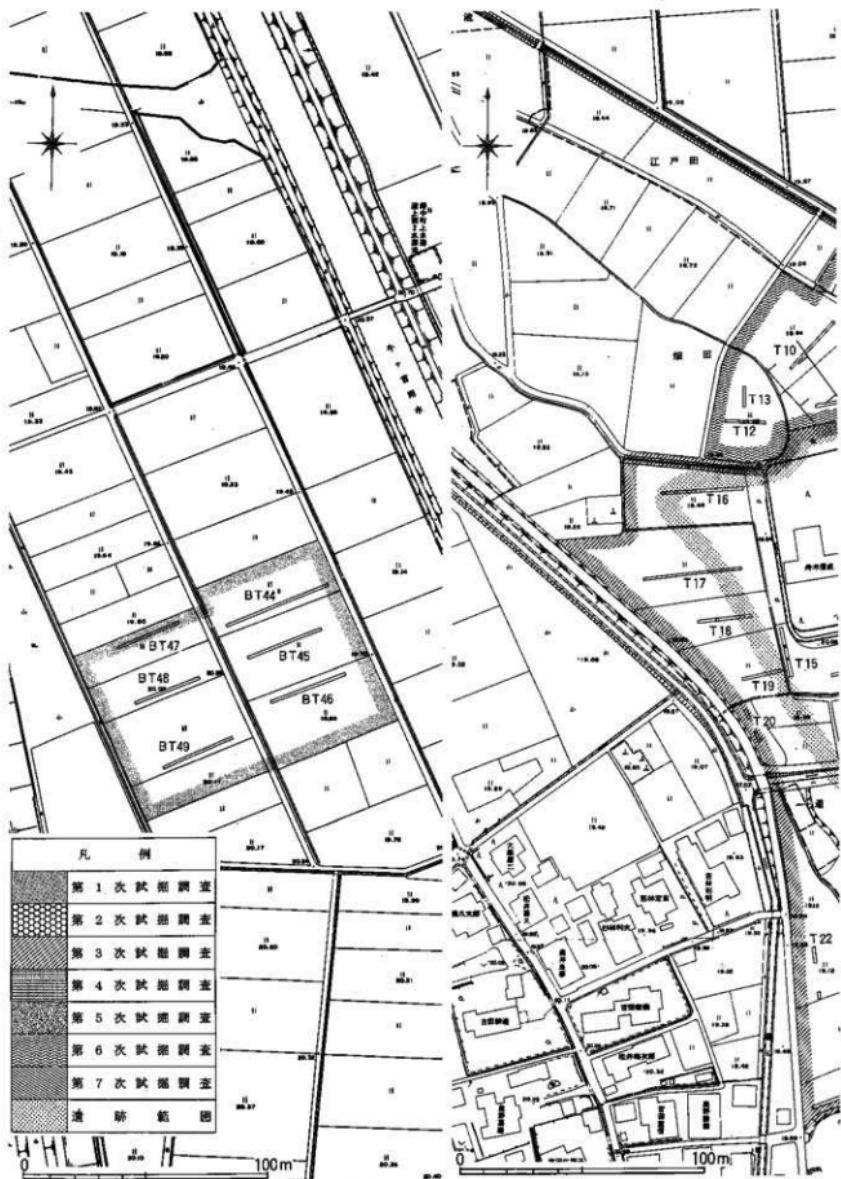
増田地区



第19図 試掘調査概要図 (1 / 2,000)

砂子田地区



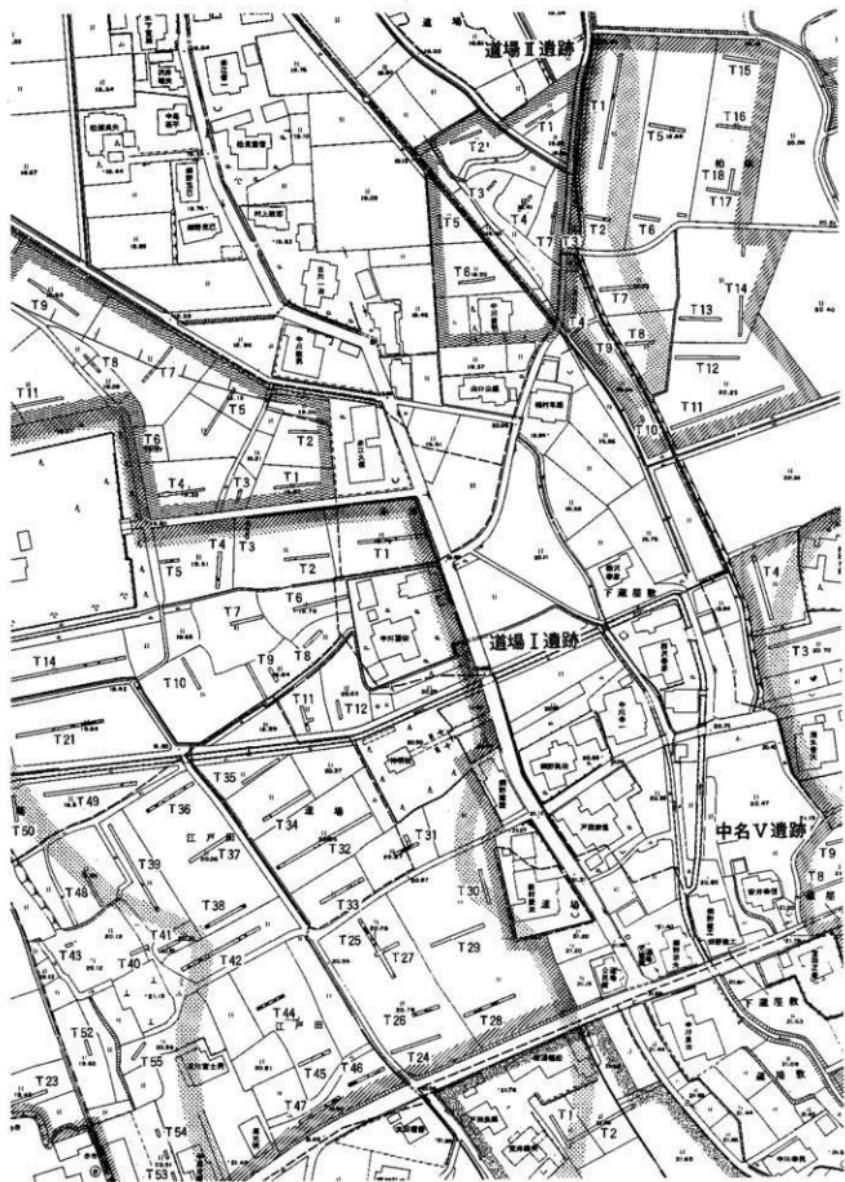


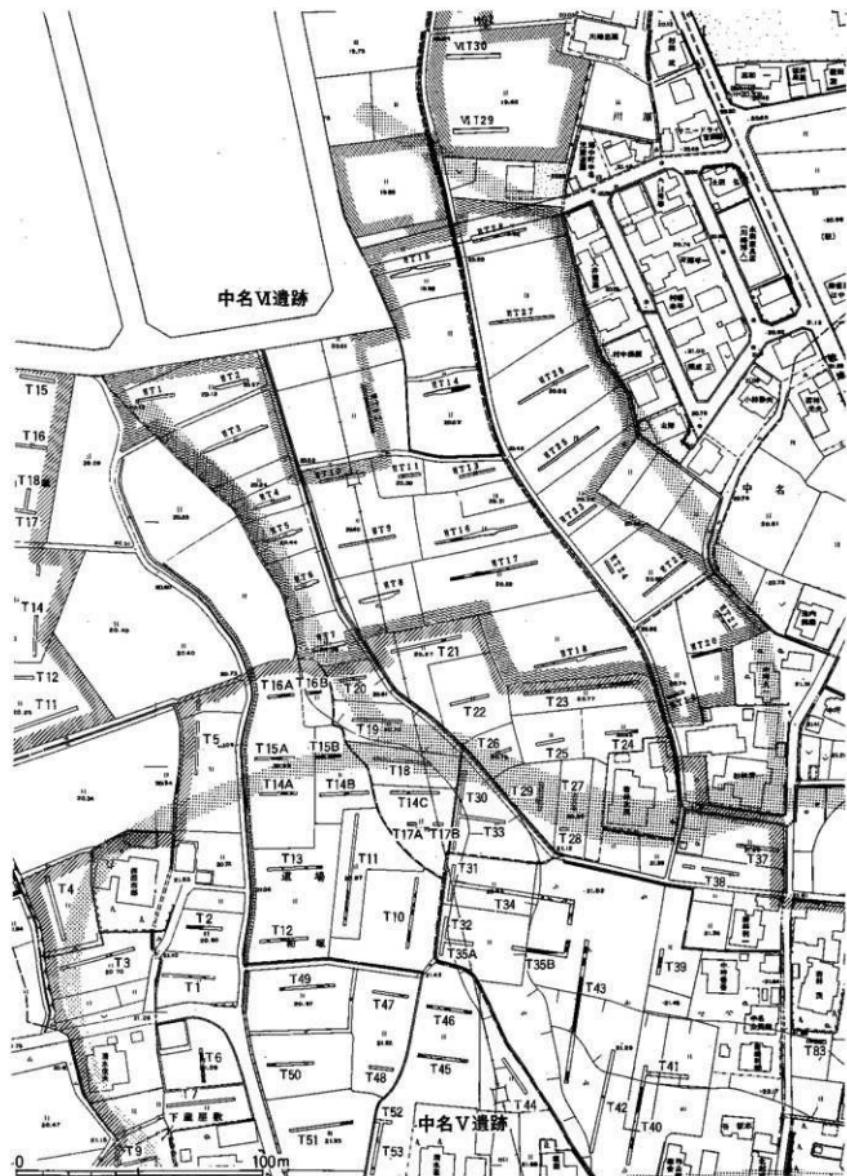
第20図 試掘調査概要図 (1/2,000)

下井沢地区

第21図 試掘調査概要図 (1/2,000)

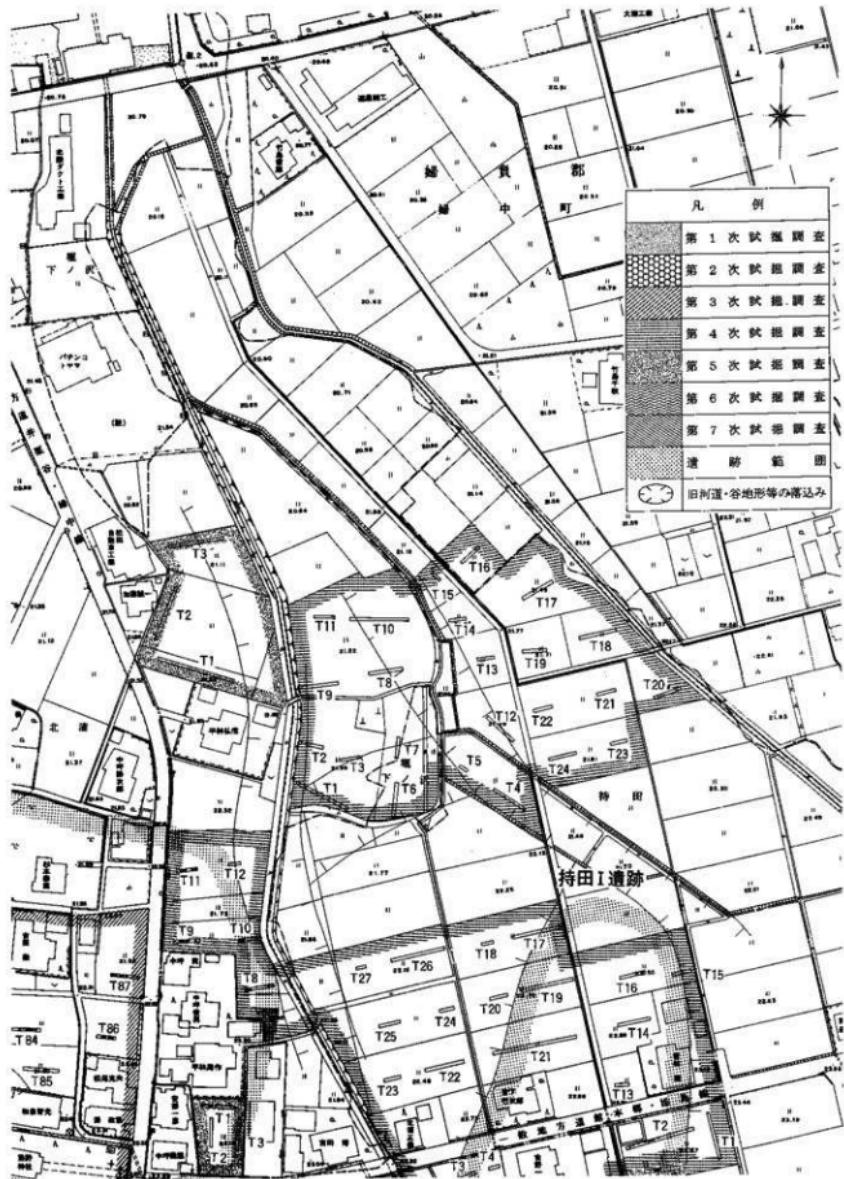
道場地区

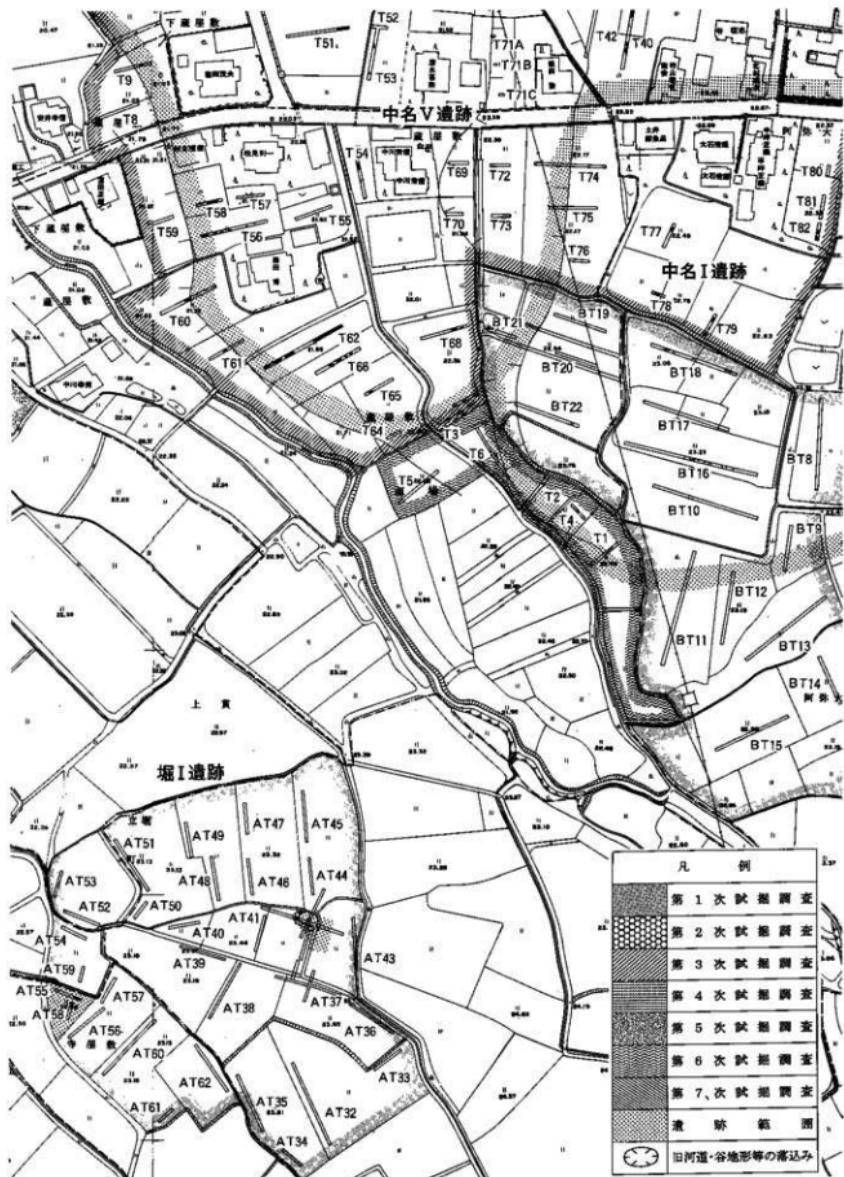




第22図 試掘調査概要図 (1 / 2,000)

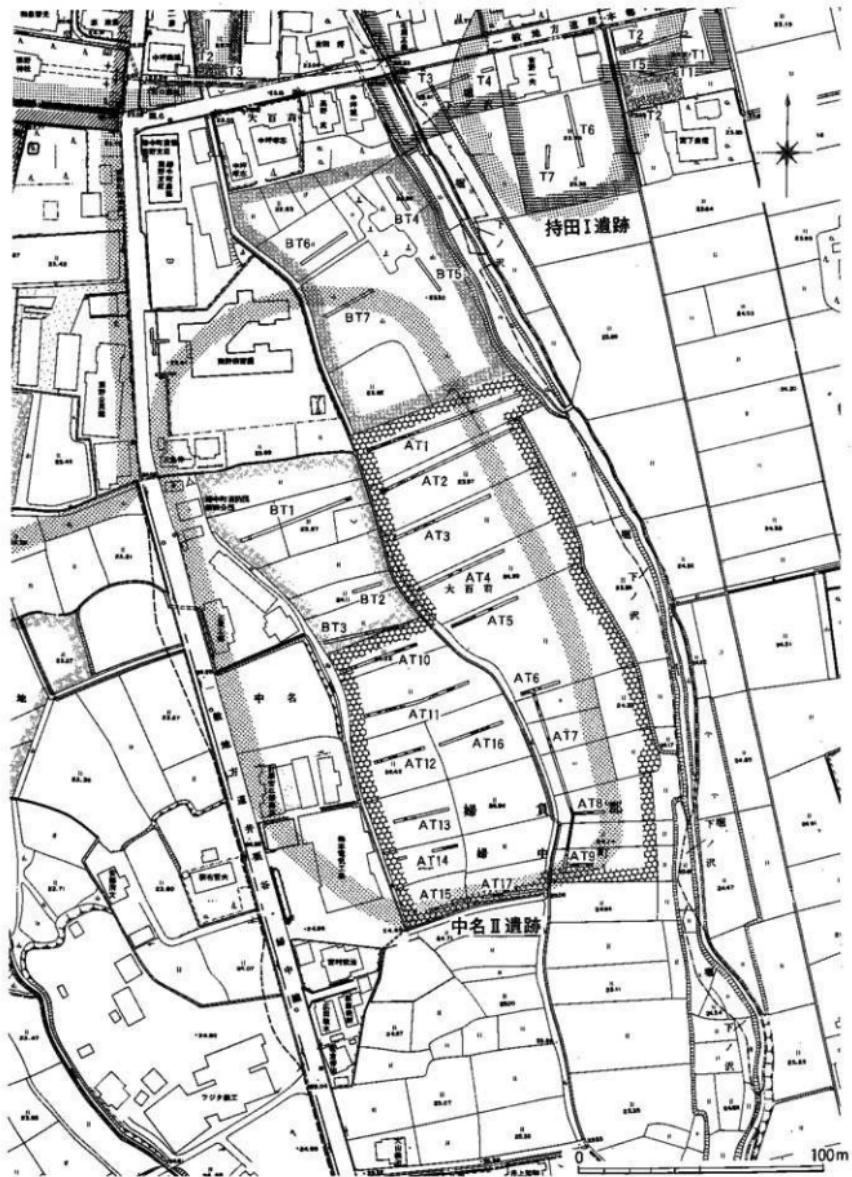
道場・中名・持田地区





第23図 試掘調査概要図 (1/2,000)

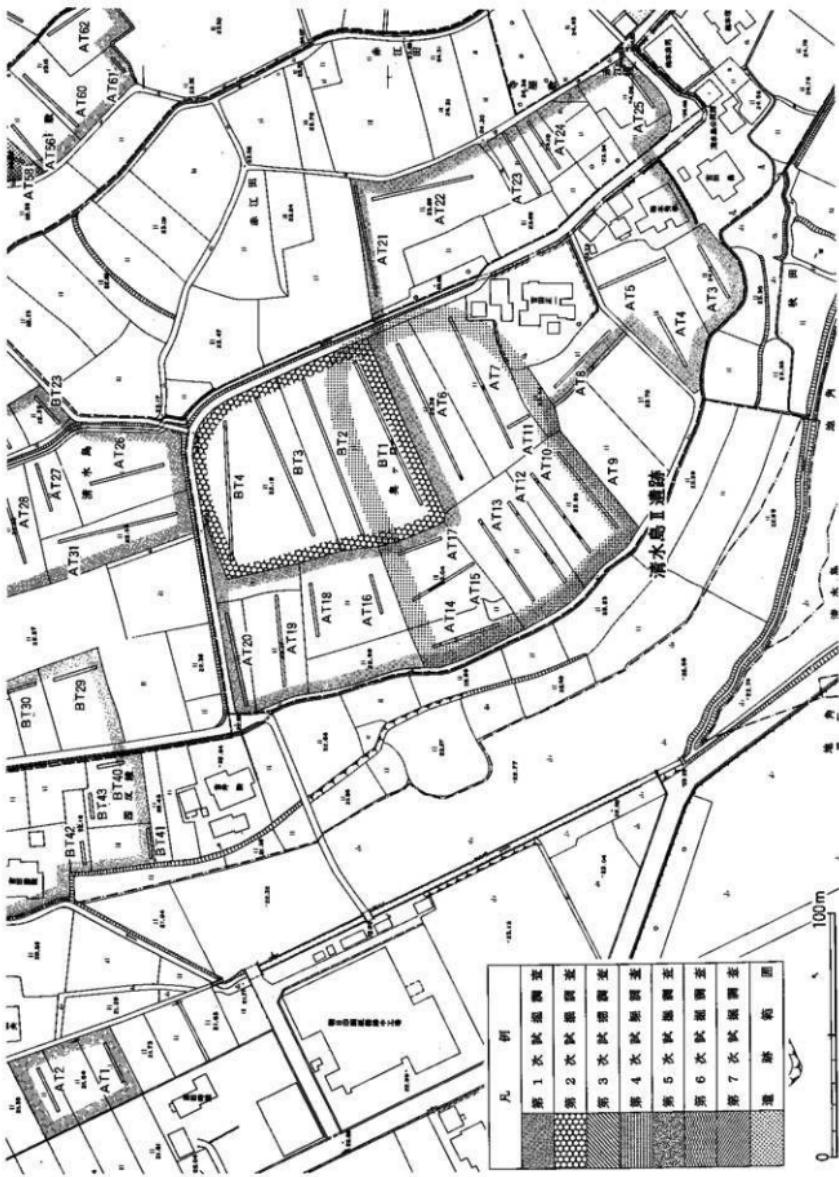
道場・中名・堀・持田地区

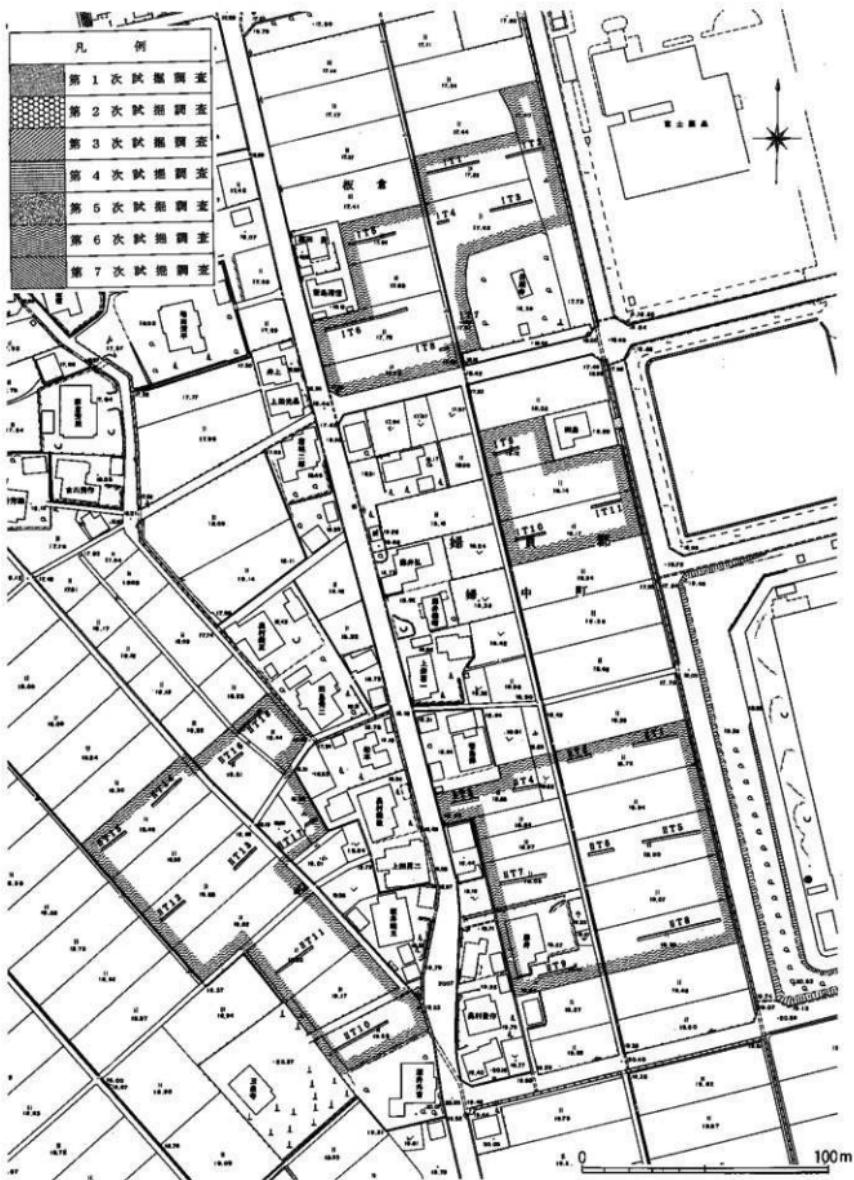




第24図 試掘調査概要図 (1/2,000)

道場・堀・清水島地区

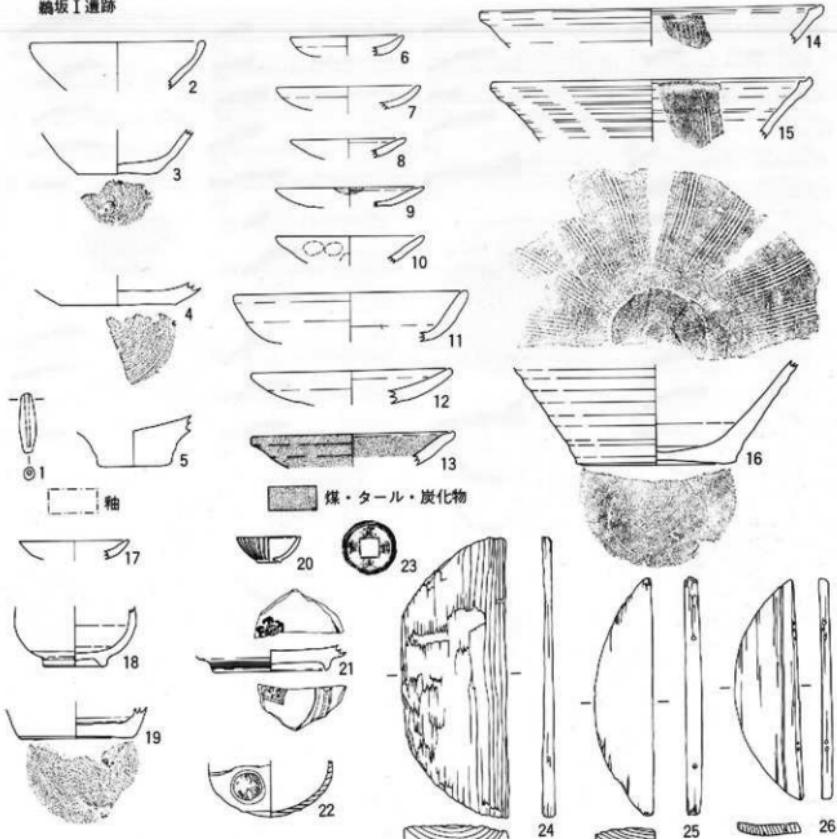




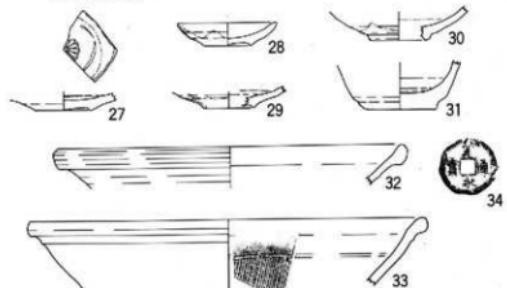
第25図 試査調査概要図 (1/2,000)

板倉地区

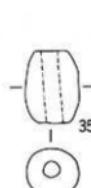
鷺坂 I 遺跡



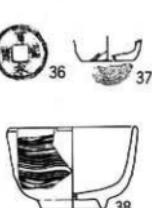
宮ヶ島 I 遺跡



西本郷遺跡



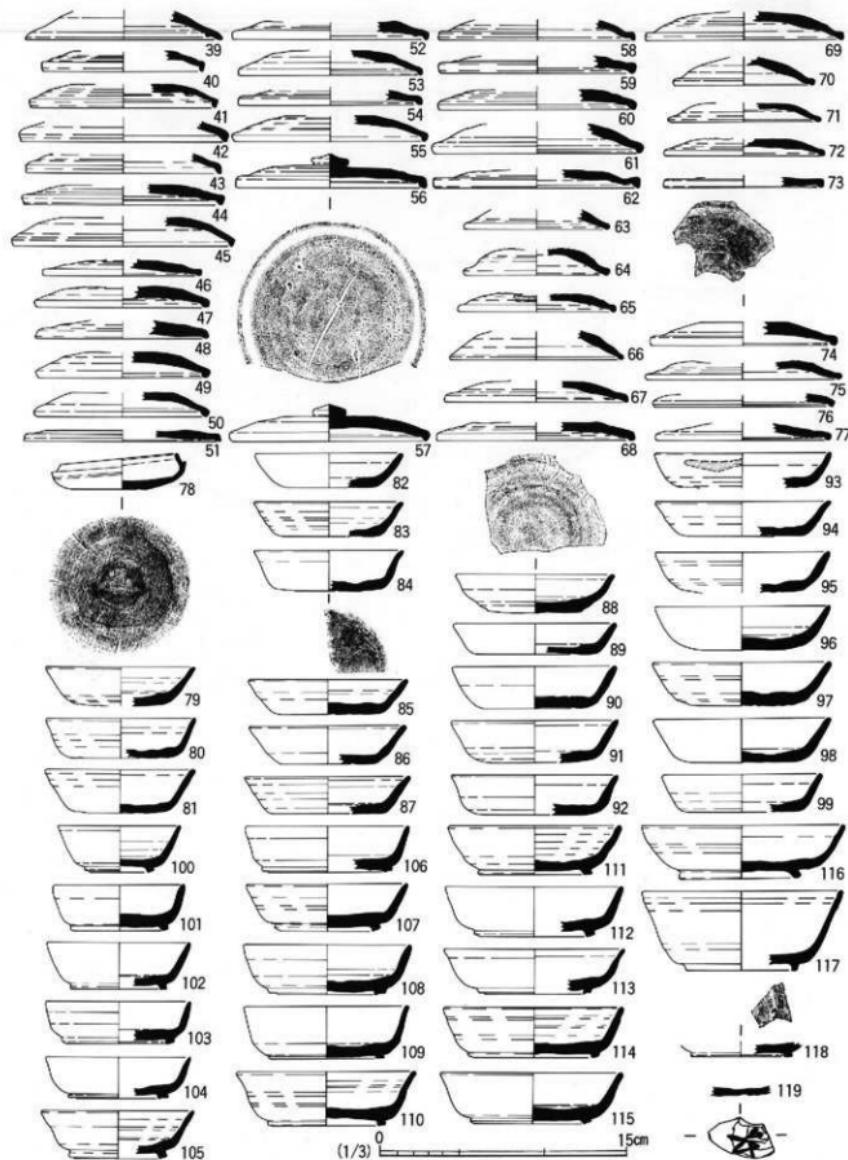
下巣田 I 遺跡



(1/3) 0 15cm
(1/6) 0 30cm
(1/2) 0 10cm
(1/4) 0 20cm

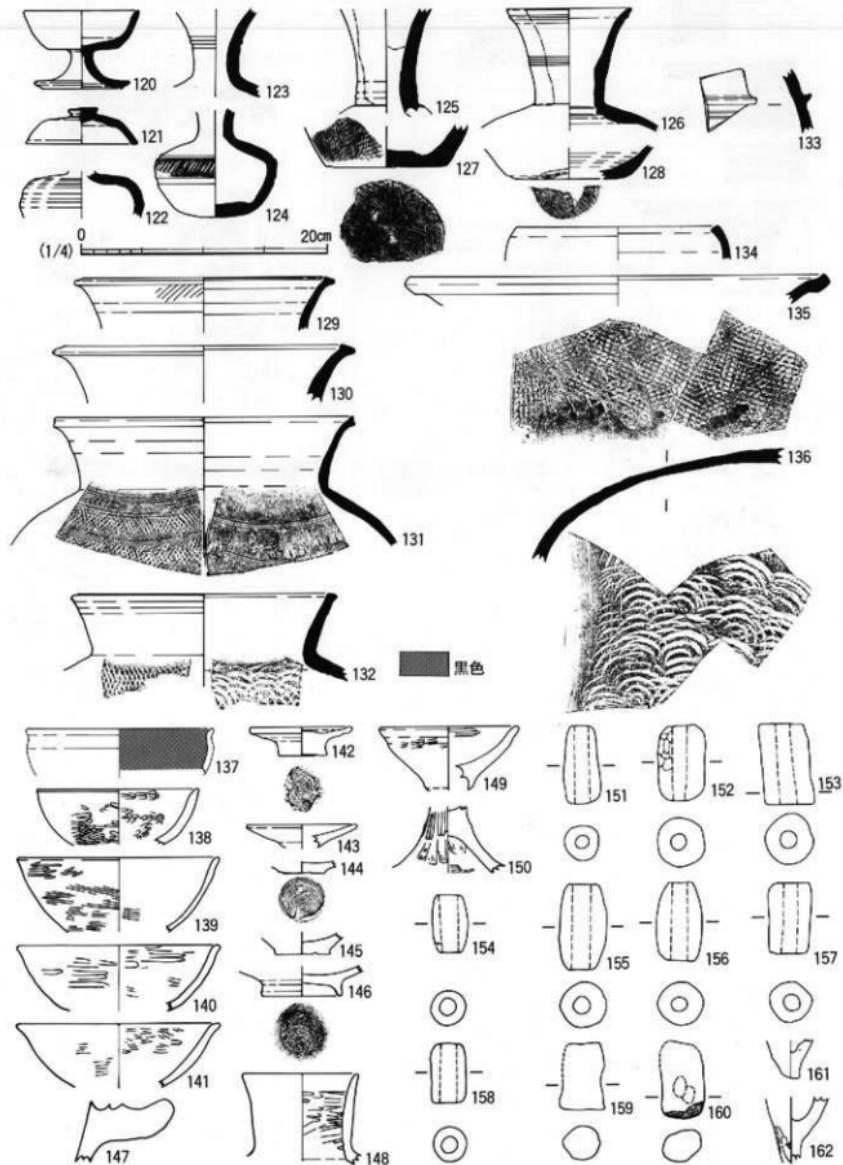
第26図 遺物実測図 (23・24は1/2、2-13は1/3、24-26は1/6、その他は1/4)

鷺坂 I 遺跡 T14:17, T55:4, T56:5-18, T59:9, T68:8-11, 12, T65:10, T66:23, T70:2-3, T71:24, T75:13-22, T76:15-16, 19-25, T85:6, T92:21, T129:7, T137:26, T199:1, T217:20, 表探:14 宮ヶ島 I 遺跡 T12:27-32, T17:33, T22:34 西本郷遺跡 表探:35 下巣田 I 遺跡 T2:37, T38:38, 表探:36



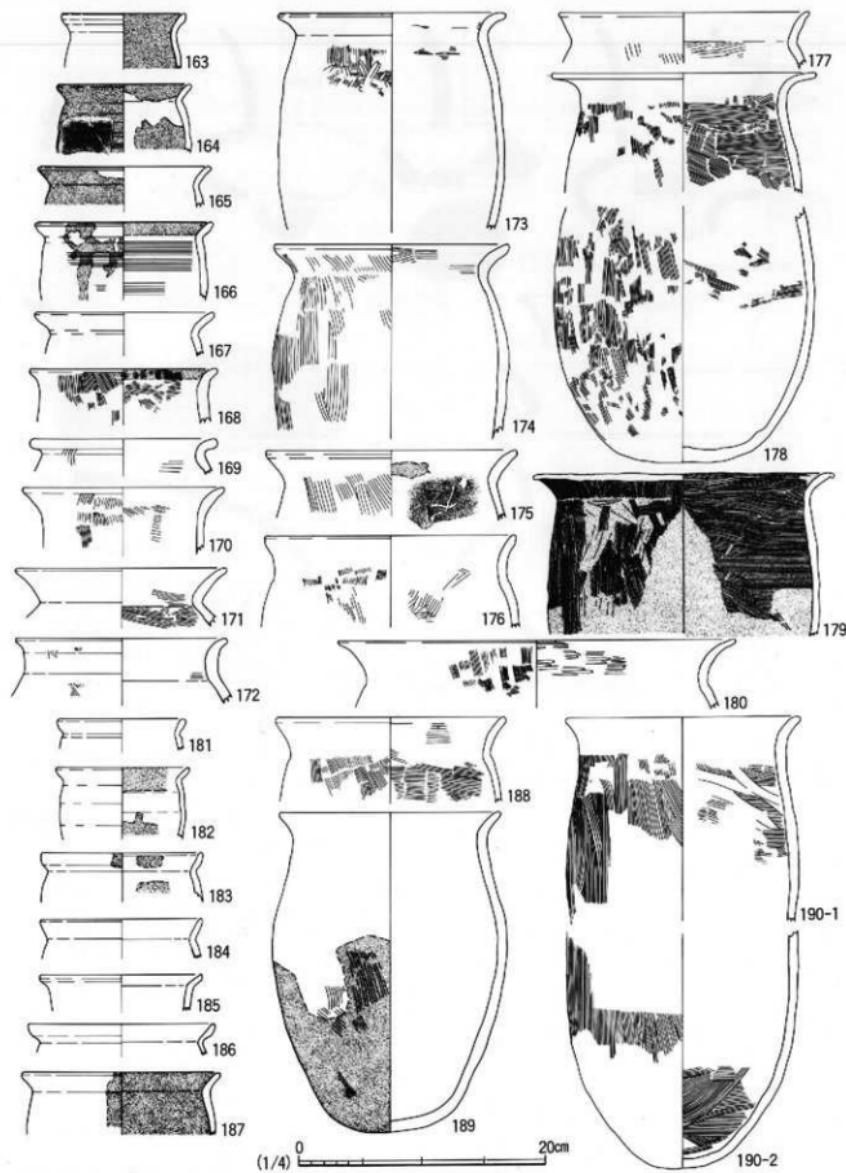
第27図 遺物実測図(1/3)

砂子田遺物 T27:78, T27:46-54-63-65-68-71-79-80-93-100-117, T33:106, T34:51, T39:102-118, T40:70-86-116, T41:39-42-53-110, T42:43-55-85-94-111, T43:41-47-95, T44:81-96, T46:57-64-69-75-76-87-105, T48:91, T49:77, T55:40-48-101-107, T56:61-73-74-92, T57:44-56-58-59-60-62-89-90-97-98-103-104-108-112-113-114-115, T74:119, T77:49-50-66-82, T79:45-67-83-88, T80:52-84-99-109



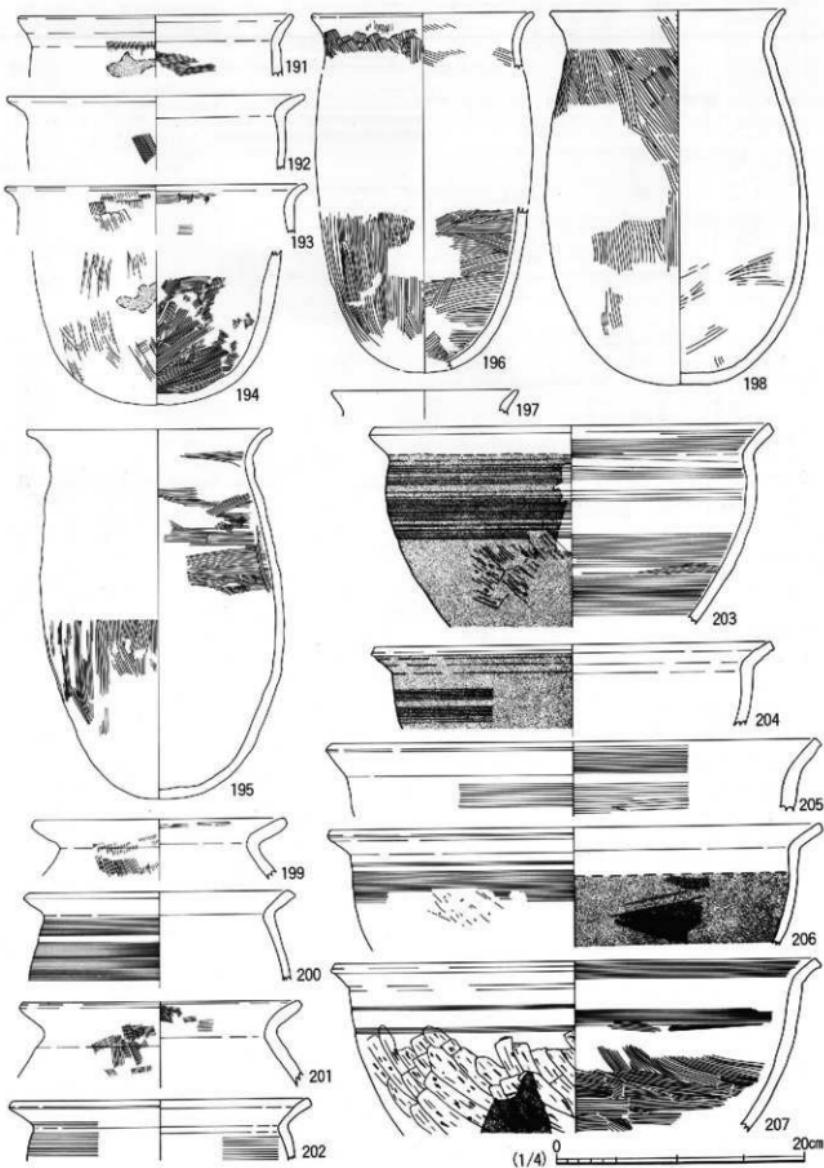
第28図 遺物実測図 (1/3)

砂子田遺跡 T7:123-139, T17:137-140-141, T27:126-151, T35:138, T41:127-152-161, T42:135-150-154, T46:120-121-131-132, T48:129-130-146-155, T52:133-156, T55:128, T57:134-136-158, T58:149, T73:124, T77:148, T79:142-143-145-157, T80:153-162, T83:147-159, T84:122-125-160



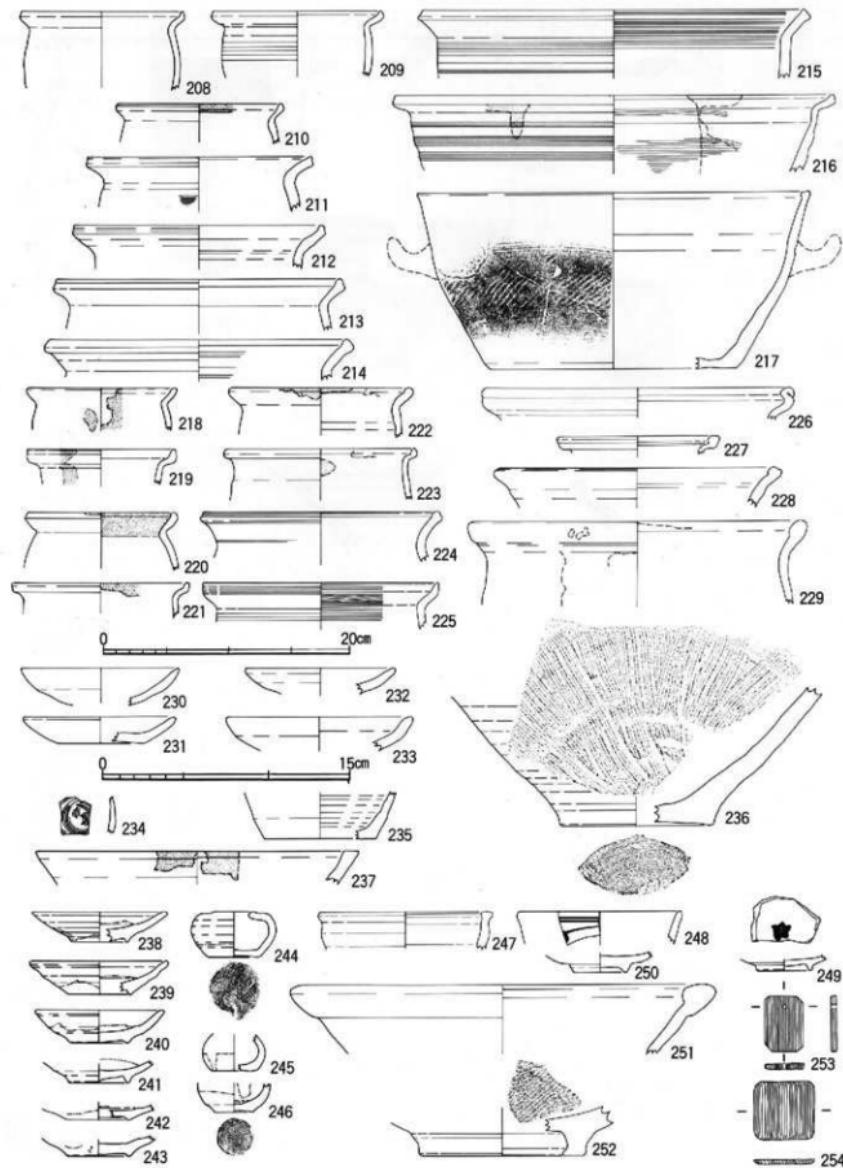
第29図 遺物実測図(1/4)

砂子田Ⅰ遺跡 T7:175-176-180-188, T17:170, T27:164-166-182, T36:171, T38:172, T39:165, T40:173-178-189-190, T41:163-183-184, T44:167, T46:174, T52:168, T57:181-185-187, T75:186, T77:169, T79:179, T81:177



第30図 遺物実測図 (1/4)

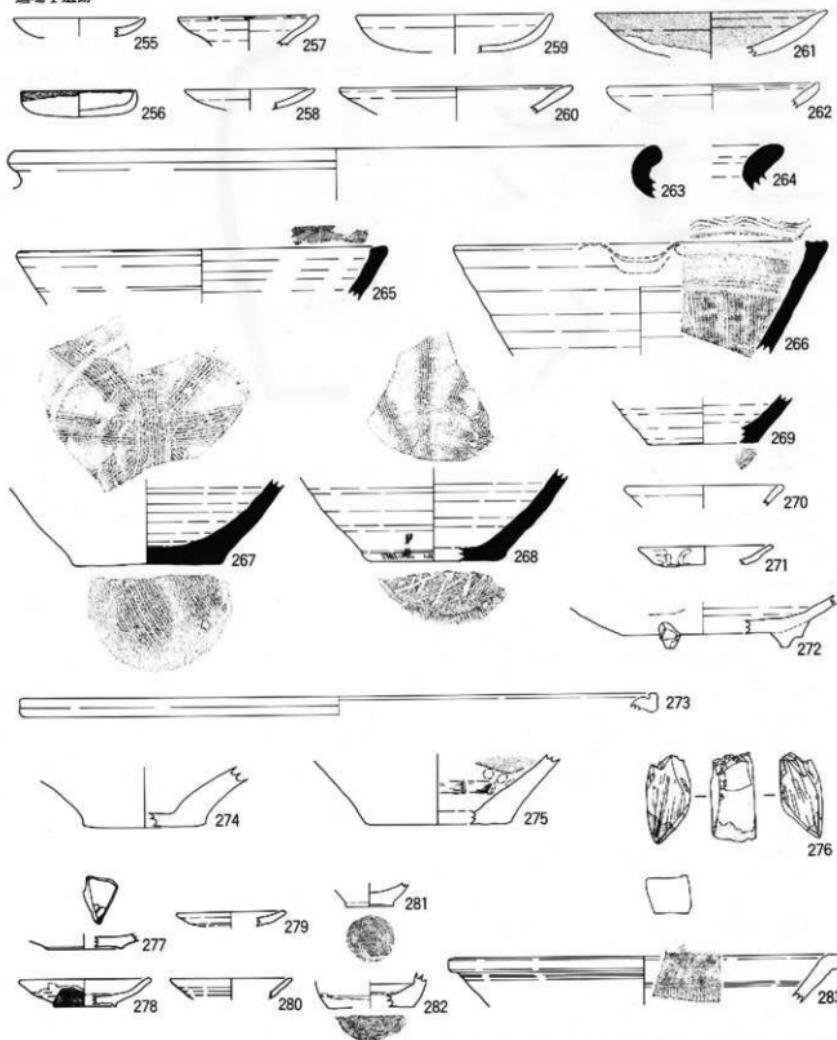
砂子田I遺跡 T27:207, T39:205, T40:194・195・196・198, T43:192, T57:197・200・202・203・204・206, T59:191・193, T73:199・201



第31図 遺物実測図 (230~233は1/3、その他は1/4)

砂子田I遺跡 T1:241, T27:210-214-218-220, T29:247, T33:234, T39:224, T40:236-248, T45:244-252, T46:213-219-225-227, T47:216-238-245, T49:239, T51:226-230, T52:212-221-222-223-229, T53:228, T56:242, T57:208-209-211-215-217-253-254, T64:232, T65:237-251, T69:250, T72:243, T73:235-246, T79:231, T87:233, T96:249, T109:240

道場 I 遺跡



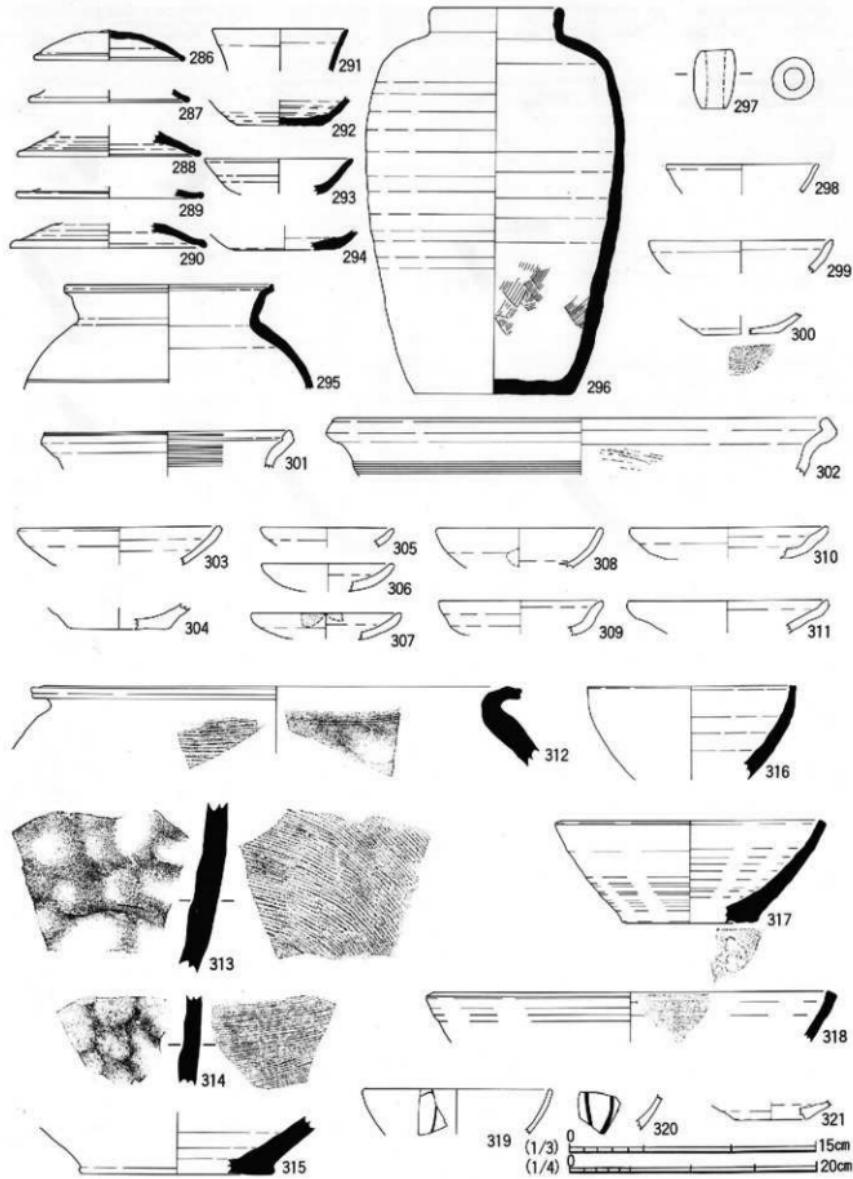
道場 II 遺跡



第32図 遺物実測図 (255~262は1/3、その他は1/4)

道場 I 遺跡 第3次調査 T1:270-281-285, T2:283-284, T5:276, T6:282, T10:277-278, T25:256-259-268-273-275, T26:262, T28:272, T30:255, T31:265, T32:271, T36:258-261, T37:280, T39:266, T42:260-263-264-267, T46:257, T57:279,
表尺:269

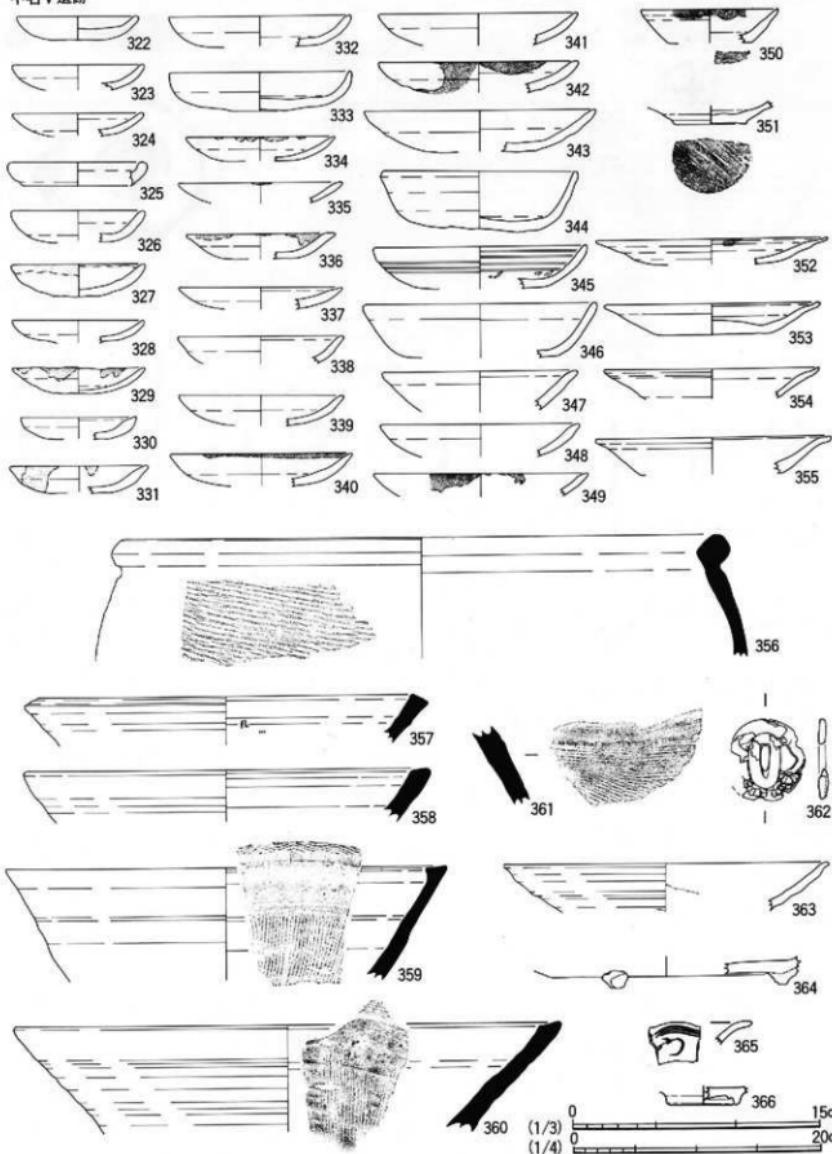
中名 I 遺跡



第33図 遺物実測図 (303~311は1/3、その他は1/4)

中名 I 遺跡 第1次調査 B T8:320, B T9:308, B T10:305~307・311~318, B T16:303~309・310・312~314, B T17:316, B T18:304, B T21:321、第3次調査 T1:315, T24:301, T45:319, T72:299~317, T74:286~294・296~298・300~302, T75:295, T82:297

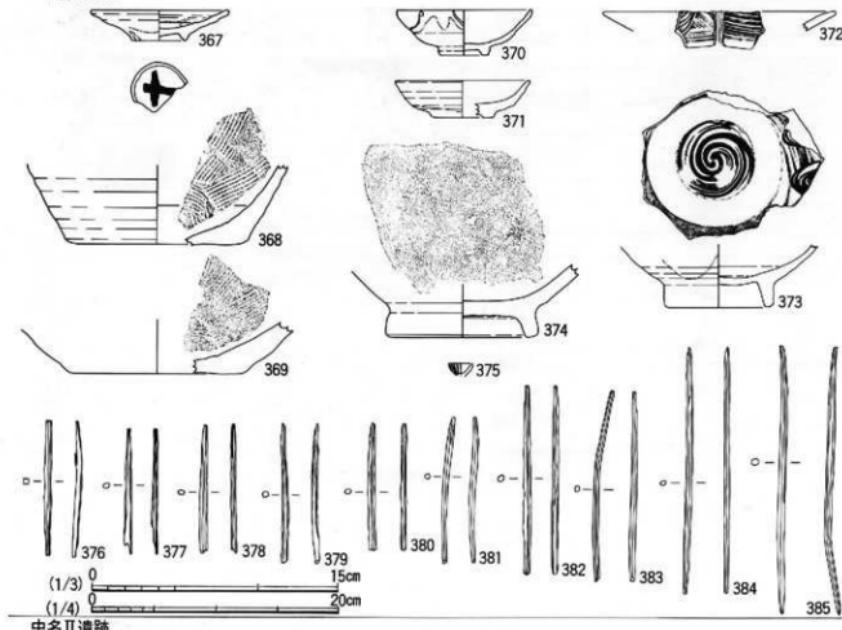
中名V遺跡



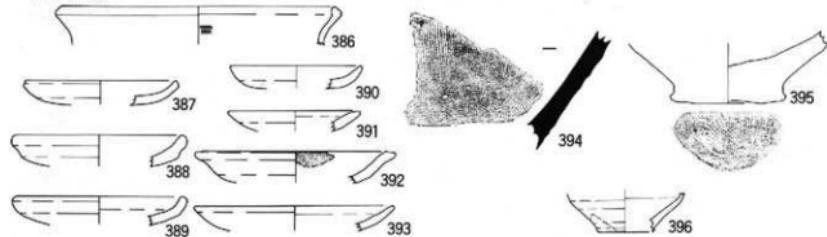
第34図 遺物実測図 (322~355・362±1/3、その他±1/4)

中名V遺跡 第3次調査T11:342-357、T34:322-332、T36:359、T42:345、T45:325~331-334-337-339-343-347-349-353-355-356、
T46:333-350-352-354-363-365-366、T47:323-351、T49:341-348、T50:360-362、T52:336、T53:364、T72:338-346、T73:344、
T83:361、T86:335、T87:358

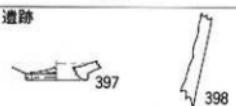
中名V遺跡



中名II遺跡



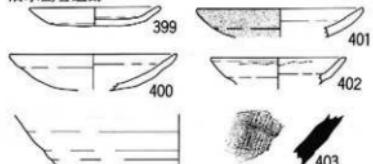
清水島I遺跡



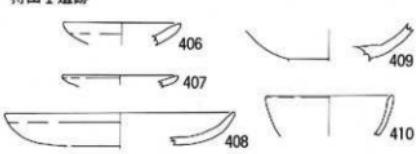
清水島III遺跡



清水島II遺跡



持田I遺跡



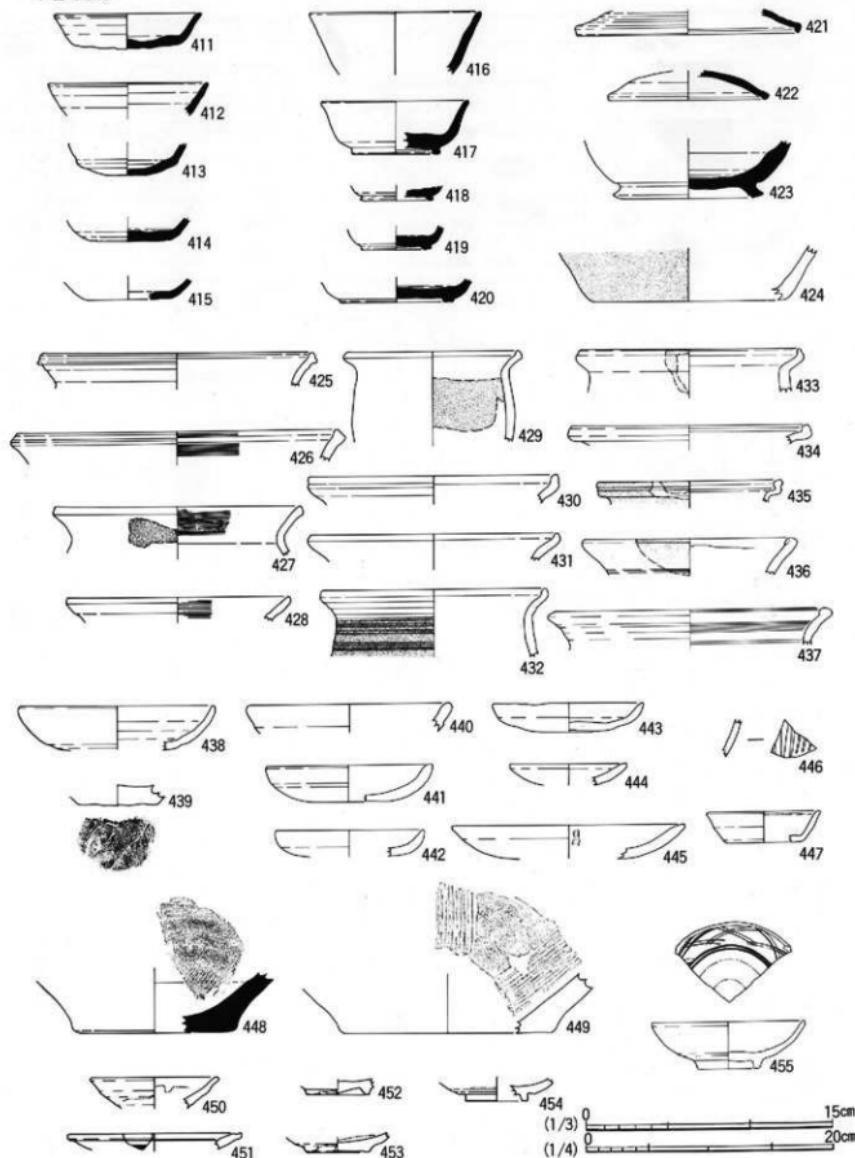
第35図 遺物実測図 (387~393・399~401・404~406は1/3、その他は1/4)

中名V遺跡 第3次調査T1:374, T3:375, T53:372, T62:367-369-371, T72:376~385, T84:370-373, T86:368. 中名II遺跡

第1次調査B T1:386, B T3:396, B T10:389. 第2次調査A T1:387, A T2:388-395, A T4:391, A T7:390, A T10:392~394

清水島I遺跡 B T34:397, 表探:398. 清水島II遺跡 A T6:399, A T7:400-401, A T14:403, B T2:402. 清水島III遺跡 A T31:404, B T27:405. 持田I遺跡 第4次調査T1:410, T2:409, 表探:407-408. 第5次調査T1:406

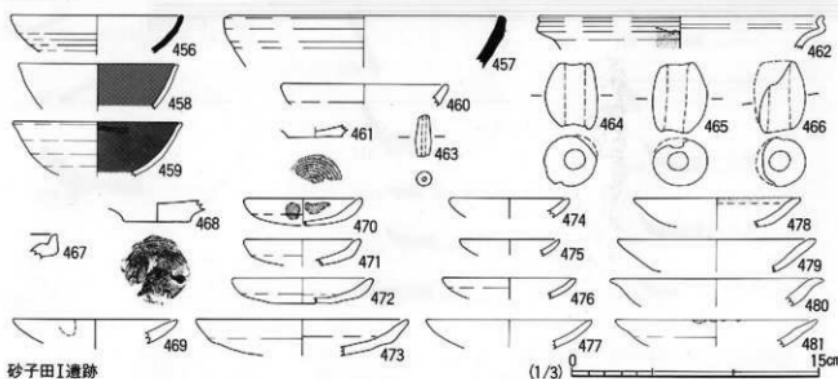
中名VI遺跡



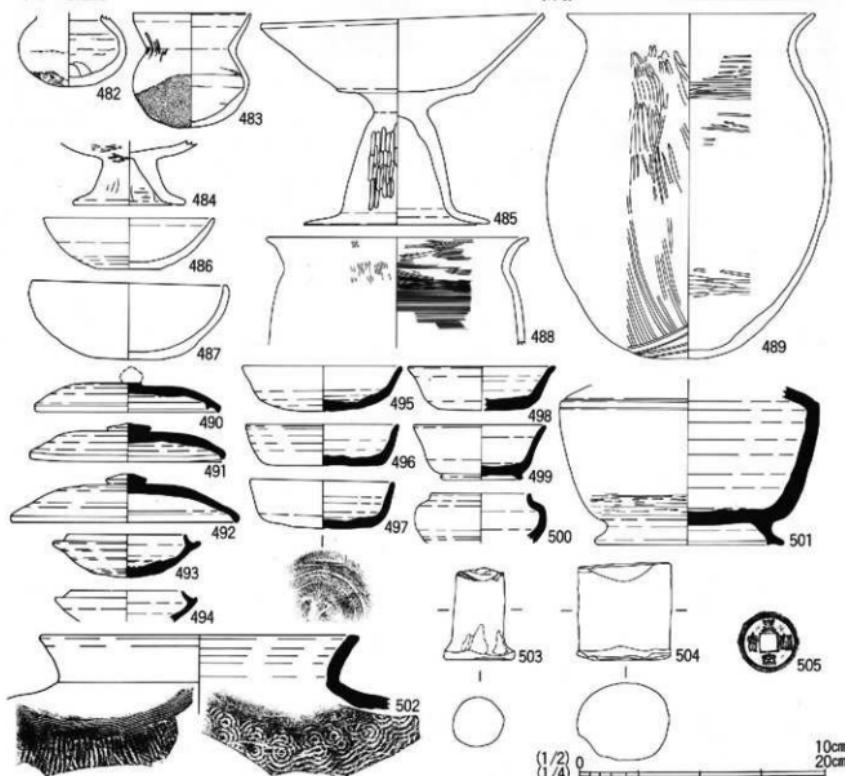
第36図 遺物実測図 (438~445は1/3、その他は1/4)

中名VI遺跡 T8:453, T9:444, T11:415-430-432~436-445, T14:446, T15:451, T16:454, T17:450, T18:447~449, T19:439, T20:440, T21:452, T22:442, T23:414-437-441-443, T28:411~413-416~429-431, 表探:438-455

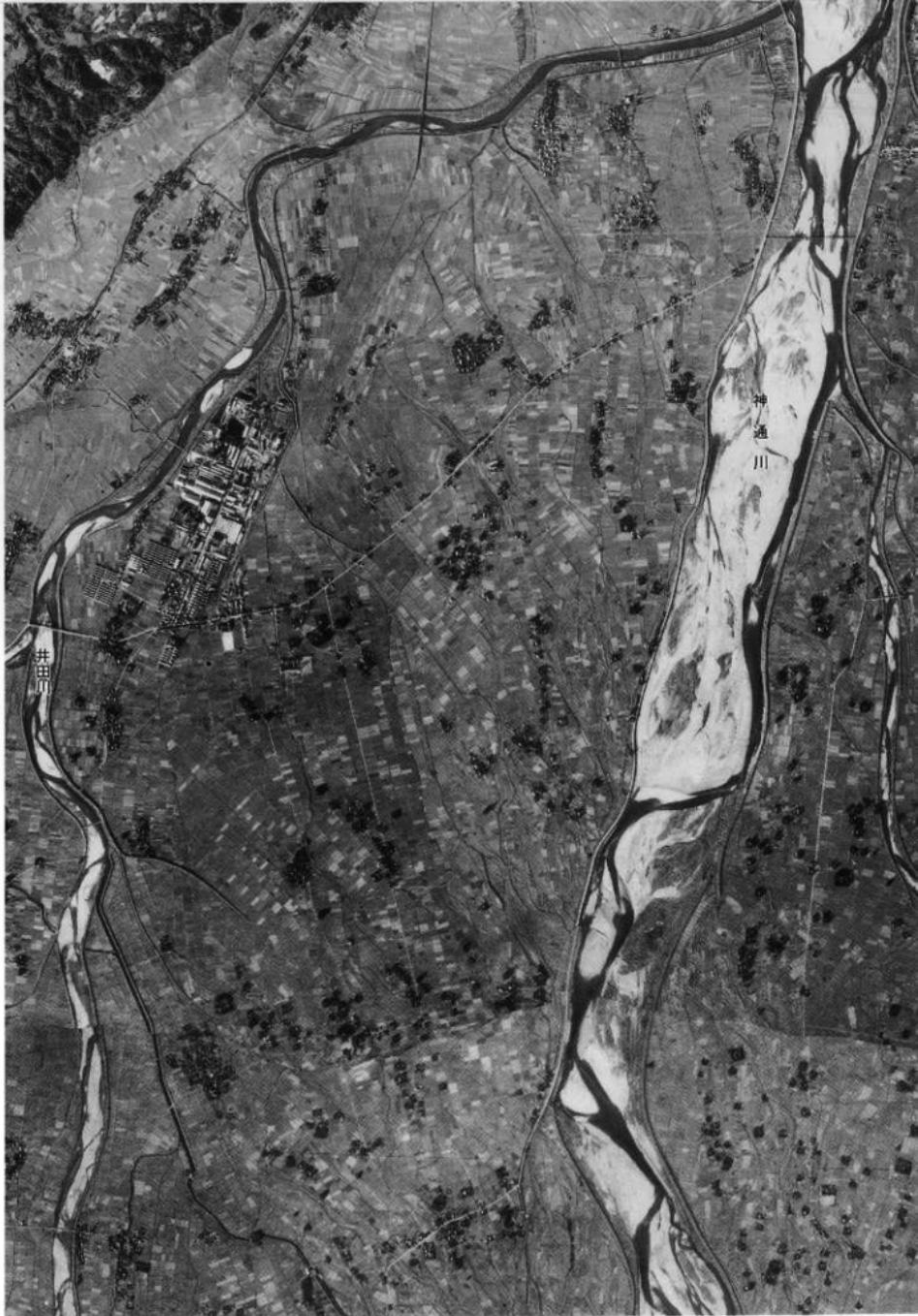
鶴坂I遺跡



砂子田I遺跡



第37図 公特事業外試掘調査出土遺物 (468~481は1/3、505は1/2、その他は1/4)



図版1 航空写真 (1 / 25,000)

昭和20年 米軍撮影



図版 2 2.西本郷遺跡調査前状況 3.羽根野Ⅰ遺跡調査前状況 4.鶴坂Ⅰ遺跡調査前状況 5.鶴坂Ⅰ遺跡T6断面(東から)
6.鶴坂Ⅰ遺跡T6遺構検出状況(北から) 7.鶴坂Ⅰ遺跡T12遺構検出状況(西から) 8.宮ヶ島Ⅰ遺跡調査前状況 9.田島Ⅰ遺跡調査前状況
10.下岩田Ⅰ遺跡調査前状況



11

12



13



14



15



16

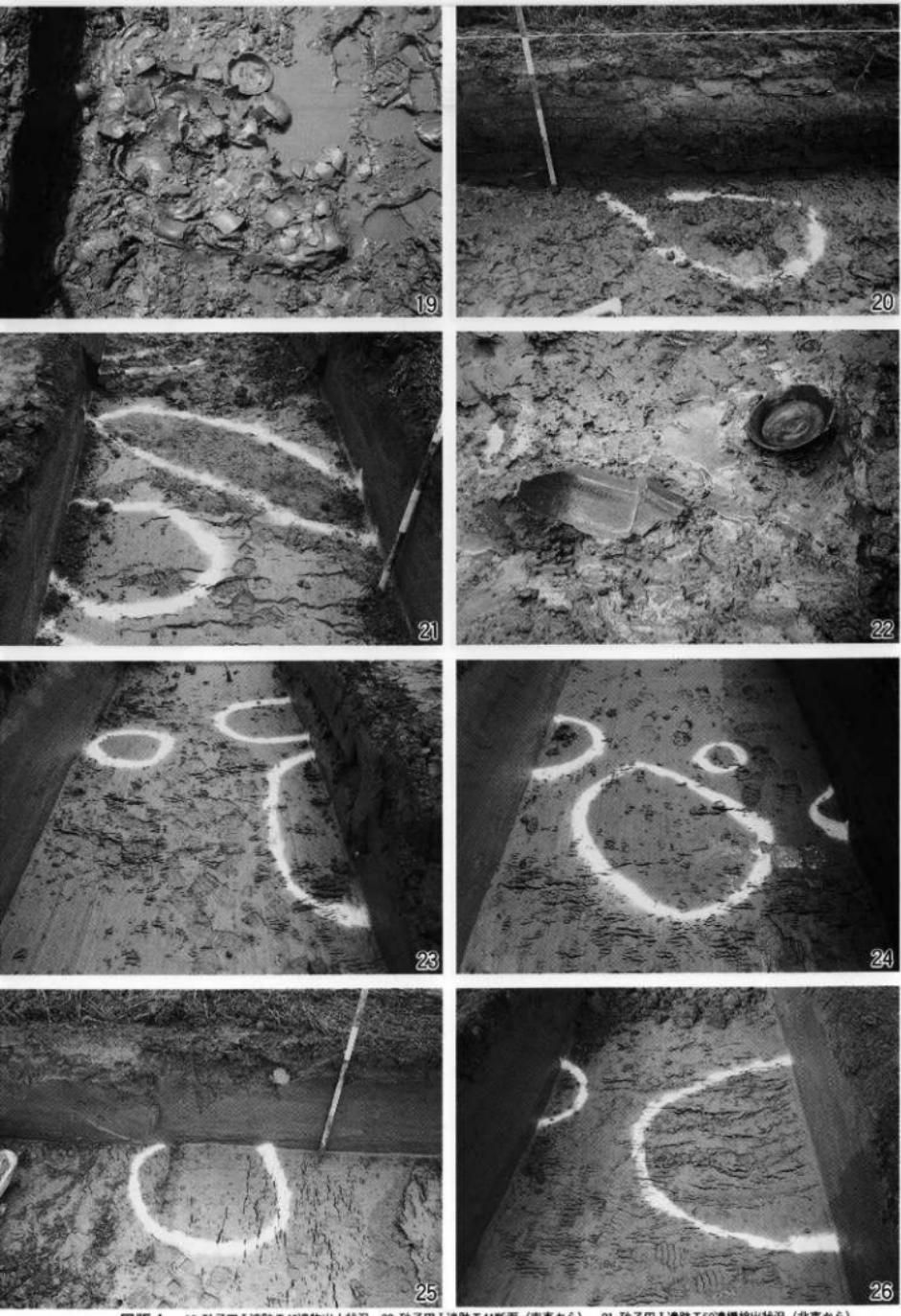


17

18



図版 3 11. 塚原Ⅰ遺跡T1(東から) 12. 上野田Ⅰ遺跡T1(東から) 13. 上野田Ⅱ遺跡調査前状況 14. 増田Ⅰ遺跡調査前状況
15. 砂子田Ⅰ遺跡調査前状況 16. 砂子田Ⅰ遺跡T7遺物出土状況 17. 砂子田Ⅰ遺跡作業風景 18. 砂子田Ⅰ遺跡T27遺物出土状況



図版4 19. 砂子田I遺跡T40出土状況 20. 砂子田I遺跡T41断面（南東から） 21. 砂子田I遺跡T52遺構検出状況（北東から）
 22. 砂子田I遺跡T57遺物出土状況 23. 砂子田I遺跡T80遺構検出状況（南西から） 24. 砂子田I遺跡T80遺構検出状況（南西から）
 25. 砂子田I遺跡T82遺構検出状況（南東から） 26. 砂子田I遺跡T83遺構検出状況（南西から）